



服部文庫
117
1852
1



117
1852
1

經濟錄卷第三

官職

信陽

太宰純

撰

凡天下國家ヲ治ムルニ百官ノ官職ヲ定置クコトヲ先
 世ニイフ役人ナリ職トハ官人ノ職掌ナリ某ノ官ハ
 フ是職ナリ官人ニ位階アリ是ヲ爵トイフ今ノ世
 席トイフ是爵位ナリ天下ニハ萬機トテ日々ニ種々
 ラ天子ノ一人ニテ治タラフコト能ハザル故ニ百官ヲ立テ各其事ヲ
 掌ラシム百官トイハバトテ必シモ其數百アルトハアラス只其數多キ
 コトヲイヒテ百官トイフナリ尚書ニ唐虞稽古建官惟百トイヘル

經濟錄卷第三

ハ官人ヲ立テ天下ヲ治ムルコトハ堯舜ノ前上古ヨリ有ルヲ堯舜其
 古ヲ考テ百官ヲ立タマヘルナリ唐虞ノ世ハイマダ上代ニテ政事モ
 少キ故ニ百官トイフニテ治マリシガ夏殷ノ代ヲ歴テ次第ニ事多
 クナリシ故ニ周ノ代ニハ三百六十ノ官アリ周公ノ成
 三公六卿以下ノ諸官ヲ立テ其職掌ヲ分テ常キ
 其書ヲ周禮トイフ三公ハ太師太傅太保ナリ此
 事アルニ非ズ譬ヘハ人ニ師範アリ小兒ニメノトダキモレ
 者アルガ如シ朝夕ニ君ノ御前ニ在テ德行ヲ輔
 邪僻ヲ閑ギ淫佚ヲ戒ルノミナリ君ハ此三公ヲ師範トシテ善道ヲ
 聞シメシ徳ヲ明ニシ過ヲ改タラナリ然ル故ニ其位ヲ一品ニシテ人

臣ノ中ニテ至テ貴キ者ニシタマヘリ三公ハ殊ニ其人ヲ選ブ故ニ必シモ三
 人ノ員ヲソロヘバ若然ルベキ人ナケレバ闕タルニテサシクナリ三公ハ
 別ニ其人ヲ立テズ六卿ノ中ヨリ昇テ三公トナリテ
 マニテ領ズルナリ三公ノ次ニ三孤アリ少師少傅少保ヲ
 三孤モ定レシ職掌ナク三公ニ副テ天子ヲ輔佐ス
 必三公三孤アリ太子ヲ輔翼スルナリ然レドモ太子
 卑レ古ハ天子モ太子モ此三公ヲ師範トシテ殊
 ヒ毎日御前ニ召テ着坐セシメ古今ノ物語ヲ聞召ス故ニ自聞
 見モ廣クナリ淫亂放佚ノ事ニモ遠ガカリタマフナリ六卿トイフ
 ハ天下萬機ノ政事ヲ六ツニ分テ是ヲ六人ニ主トラシムル故ニ天下

ノ事悉皆此六人ノ外ニ出ズ是ラ六官ト稱シテ天地ト四時ト配
ス天官ヲ冢宰トイフ冢ハ大ノ義ナリ又大宰トイフ地官ハ大司徒
春官ハ大宗伯夏官ハ大司馬秋官ハ大司寇冬官ハ大司空ナリ
此六官皆卿ノ位ナル故ニ是ラ六卿トイフ此六卿中三卿ハ三
公ヨリ兼テコレヲ領ズルナリ成王ノ時周公旦太
ジタマヒシニ周公薨ジタマヒテ後康王ノ時ニ召公奭
宰ヲ領シ畢公高周公ニ代リテ太師トナリテ大司馬
公太傅ニテ大司空ヲ領ズ芮伯ハ大司徒彤伯
康叔ハ武王ノ弟ニテ大司寇ナリ六官ニ各職掌
ハ定ニレル職掌ナキ故ニ別ニ其人ヲ立テズ是周ノ代ノ制ナリ後世

マテモ公卿大臣トイフハ是ヲ指スナリサテ六卿ノ職ハ冢宰ヲ治
官トイフ邦治ヲ掌ル邦治トハ天下國家ノ治メナリ
ヲ治ムルコトヲ掌ルトイヘドモ餘ノ五官ハ各一事ヲ掌ル
ノ事ヲ統テコレヲ知ルナリ其職第一ニ人ヲ知コトヲ務ム
能ラ選出シ君ニ言上シテ百官ソレクノ職ニ居ラシ
又様ニスル是冢宰ノ當職ナリ次ニ國計ヲ掌ル國
定ナリ歲計トイフハ一年中ノ總勘定ナリ米穀金
貨財ノ出入ヲ勘定シテ國用軍用ノ匱
下萬民マテ困窮セザル様ニ水旱火災兵革等ノ厄難アリテモ國
家ノ痛ミザル様ヲ常ニ思惟シテ取計フナリ此ニツハ天下ノ總躰ニ

係ル政ニテ家宰ノ專要ニ心ガル事ナリ。朝廷ノ内ニテハ君ノ御服朝
夕ノ御膳醫藥ノ事皆家宰コレヲ主トシ又後宮ノ事皆家宰ニ屬
ス後宮トハ今イフ奥方ナリ家宰ノ職カクノ如シサレバ今ノ世ニイフ
納戸方臺所方奥方ノ諸役人トイフ者并ニ醫師ノ類皆家宰ノ屬
スルナリ屬ストハ支配ナリ大司徒ヲ教官トイフ邦教ヲ掌ル邦教ト
ハ天下ノ民ヲ教ルナリ司徒ハ天下ノ人民ヲ主ドリテ父子夫
婦兄弟朋友ノ五倫ノ道ヲ教ル職トス天下ニ戸籍ト云フ物下
リ籍ハ帳面ナリ民ノ家數ヲ記シタル帳ナリ定ムル戸數ヘ
入ラバ幾口ト數ヘテ天下ノ家數人數ヲ委細ニ記シタル帳ヲ戸籍
トイフ今ノ世ノ人別帳ナリ天下ノ土地ノ圖ト戸籍トヲ司徒ノ官

ニ藏置テ天下ノ土地ノ事人民ノ風俗ノ善惡ヲ知り五倫ノ教ヲ施
シ時々ニ其利害ヲ察シ愁苦ヲ問ヒ離散騷亂ヲ防ナク安堵スル
様ニ治ムル是司徒ノ職分ナリサル故ニ凡土地ノ出納ノ事ニ係レル諸役人皆司徒ニ屬スルナリ今
代ナドイフ様ナル者ニテ其總司ナル故ニ甚重キ官ナリ
官トイフ邦禮ヲ掌ル天地山川宗廟社稷ノ祭トイフ事トイフ禮法
儀式ニ至ルニテ前ノ禮樂ノ篇ニイヘル朝覲會同トイフ事トイフ昏喪祭
ノ禮凡天下ノ事聊モ禮法ニ係リタル事ハ大小皆此官ノ掌リ
ナリ樂ハ禮ニ附タル事ニ是モ宗伯ノ掌リナリサレバ凡宗廟
社稷ノ官人其外禮法儀式ニ預カルホドノ官人并ニ樂師ノ類

皆宗伯ニ屬スルナリ、大司馬ヲ政官トイフ、邦政ヲ掌ル六卿ノ職皆
政事ナレドモ、王化ニ從ハズ、王法ヲ犯ス者ヲ征伐シテ、天下ヲ平均ニ
スル是政ノ要ナル故ニ、此官ヲ政官トイフ、此官ヲ政官トイフニテ、先
王ノ政ハ軍旅兵馬ヲ要トスルコト見エタリ、此官ハ一切軍旅兵馬
ノ事ヲ掌ル軍事ハ馬ヲ主トスル故ニ、此官ヲ司馬トイフケラレタリ、
凡天下ノ軍旅兵馬ノ事ヨリ、常ニ朝廷ヲ守護シ、
關門ヲ固メ、或ハ行幸ニ供奉警衛スル類ノ事、盡司馬ノ事ナリ、
リ、六卿ノ中ニテ、此一官ノミ武官ナリ、故ニ凡武官ノ事ハ、皆司馬ニ及
ズ、何ニテモ武事ニ係ルホドノ官人吏卒ハ皆司馬ニ屬スルナリ、大
司寇ヲ刑官トイフ、邦禁ヲ掌ル、天下ノ刑罰獄訟ノ事ヲ掌ル、一

切ノ制禁ヲ立テ、土置ヲ行ヒ、公事沙汰ヲ抑ク事、皆此官ノ掌リ
ナル故ニ、刑罰獄訟ノ事ニ係ル役人皆司寇ニ屬スルナリ、大司空ヲ
事官トイフ、邦土ヲ掌ル事トハ、土木ノ事ナリ、土、
ノ普請造作ノ事ナリ、司空ハ天下ノ土地ヲ達トル土
職ニモ係レドモ、司徒ハ民ヲ治ムルコトヲ要トスル文
事ノ百姓ニ係リタル事ハ、皆司徒ニ屬ス、都邑城
或ハ川ヲ浚ヘ堤ヲ築ク類ノ普請ノ事ハ、皆司空ノ事ナリ、又百工
ノ器物ヲ作ル事モ、此官ノ掌リナリ、然ル故ニ普請ノ事ニ係
ル官人役人并ニ百工ノ類、皆司空ニ屬スルナリ、已上周ノ世ノ六
官ノ職掌カクノ如シ、天下ノ事ヲ六ツニ令テ、六卿コレヲ掌ル、六卿

ノ下ニ小宰、小司徒、小宗伯、小司馬、小司寇、小司空トイフ者各二人
人ヅ、有リ、位皆中大夫ナリ、卿ニ副テ其事ヲ佐ク、今ノ世ニイフ副
役ナリ、其下ニ又下大夫四人、上士八人、中士十六人、下士三十二人
リテ、卿ノ佐トナリ、使ヒ者トナル、其末ニ府史、胥徒トイフ等ノ者アリ、
府ハ藏ナリ、凡官ニ必役所アリ、役所ニ必藏、其官ノ記
録、諸道具ヲ藏ル、此藏ヲ預カリテ、出納スル者ヲ府史トイフ、府六人
アリ、史ハ文書ヲ作り、政事ヲ記録スル者ナリ、後世ニイフ書記ナリ、
史十二人、是ニ必文字ヲ學タル者ヲ用フ、胥ハ
ナル者ナリ、徒ハ中間ノ様ナル者ナリ、胥十二人、徒百二十人アリ、
徒十人ニ胥一人ツ、其頭トナル故ニ胥ハムナチ、什長ナリ、司馬ノ

官ニハ史十六人、胥三十二人、徒三百二十人アリ、餘ノ五官ハ上ノ如
此府史、胥、徒ハ六卿ノミニ限ラズ、六官ニ屬スル諸官ニ皆各コノ有リ、
サテ六官ニ各其官ノ支配ノ官人アルコト、上ニイヘル、如クモアリ、是ヲ
屬官トイフ、六官ノ屬、小ノ不同アレドモ、大數ヲナシト定ム、六官ヲ
合セテ、三百六十トイフナリ、此三百六十ノ官ヲ以テ、天
フニ漏ル、事ナシ、但周ノ代ハ封建ナル故ニ、天下ノ諸侯
トイフ者ヲ二人立テ、東西ニ分テ主トシ、諸侯ニモ文記ナクモ、
ハ又故ナリ、方伯ハ諸侯ノ長ナリ、昔唐虞ノ世ニ帝堯ノ天下ヲ治タ
マヒシニ、虞舜ヲ匹夫ヨリ擧テ、百揆ノ職ニ居ラシメテ、萬機ノ政務
ヲ掌ラシメタマフ、周ノ代ノ冢宰ハ、即百揆ノ職ナリ、百揆トハ百官

ヲ總ル故ノ名ナリ、大禹ハ司空ノ官ニテ、天下ノ水土ヲ掌リタマフ、
棄ハ后稷トナリテ、天下ノ民ニ農業ヲ教ヘタマフ、周ノ代ニハ司徒ノ官
コレヲ兼ヌ契ハ正シク司徒トナリテ、民ニ五倫ノ道ヲ教タマフ、皋陶
ハ士トナリテ、刑獄ヲ掌ル、是周ノ司寇ノ職ナリ、伯益ハ虞トナリテ、山
澤ヲ掌リ、禽獸ノ害ヲ除ク、周ノ代ニハ是モ司徒ノ掌ニテ、司徒
ノ屬官ニ、山虞、澤虞、林衡、川衡ナドイフ官アリ、垂
百工ノ事ヲ掌ル、器物ハ國家ノ利用ニテ、制度アル者ナリ、官ヲ立
テコレヲ治メザレバ、イツトナク、制度ヲ失ヒ、人々ノモノズキニ任セ且ハ工
人ノ方ニ利ヲ取シタメニ、姦惡ヲナシテ、粗糙ニ作り出ヌ、聖人コレヲ
惡ミタマヒテ、垂トイフ人ハ天性ノ工ニテ、神妙ナリシ人ナルヲ、此共工ノ

職ニ居ラシメタマフ、周ノ代ニハ司空ノ官コレヲ兼ヌ、又伯夷ハ秩宗トナリ
テ、天地人ノ三禮ヲ掌ル、是周ノ代ノ宗伯ノ職ナリ、夔ハ典樂トナ
リテ、音樂ヲ掌ル、周ノ代ニハ宗伯ノ官コレヲ兼ヌ、龍ハ納言トナリテ、
天子ノ詔ヲ外ニ出シ、臣下ノ言ヲ君上ニ奏達スルコトヲ掌ル、司人
内史ノ職是ニ似タリ、内史ハ宗伯ノ屬官ナリ、已
九官ハ皆舜ノ命ジタマヘルナリ、此外ニ四岳トイフハ、六ノ諸侯ヲ
主ドル官ナリ、一人ニテ四方ノ諸侯ヲ主ドル故ニ、四岳トイフ、四人
アルニハ非ズ、周ノ方伯ノ如シ、四岳ノ下ニ十二牧トイフ者アリ、唐虞
ノ世ハ、天下ヲ十二州ニ大分シタルヲ、一州ニ一人ツク、其長ヲ立テ、コレ
ヲ州牧トイフ、天下ニ十二人アリ、上ノ九官ニ、四岳、十二牧ヲ加ヘテ、二
七

十二人ナリ尚書ニ帝舜ノ咨汝二十有二人欽哉トノタマヒシハ是ナリ唐
虞ノ代ハ此世界ノムダウ井クシキ時ナル故ニ官職モ簡約ニテ事治マリ
シナリ夏殷二代ノ官職ハ詳ニ知レズ周ハ上ニイハル如ク周禮ノ書ニ記セ
ルトコロ極テ詳悉ナリサレドモ周禮ノ中ニモ冬官司空ノ子官其文闕
テ考スキ様ナレ周ノ代ハ諸侯ノ國モ天子ノ制ニ倣なま不國小國ノ
ニ官職ヲ立テ各其國ヲ治メタルコト春秋傳其外諸こニ秦代
ハ始皇天下ヲ一統シテ十五年ニテ滅亡セシ故ニ官職
諸侯ノ時ノミニテ終レリ漢ノ代ハ天下治平ニテ文化モ興リレバ改
テ百官ヲ立ツベキ時ナルニ相國丞相太尉御史大夫等ノ官アリ末
ノ小吏ニ至ルニテ多ク秦ノ官制ヲ承襲しょうじやくシテ前後四百年ノ間然ニ

當代ノ新制ヲ定ムルコトモ無カリシハ君上モ臣下モ古ノ道ニ志ナカリシ
故ナリ凡周以前ハ封建ノ世ナリシ故ニ天子ノ地トイフハ畿内千里
ノミニテ其外ハ大小ノ諸侯ニ分チ與あたタレ諸侯ハ分ぶんニ己おのガ國ヲ治テ
天子ノ百官ノ政ヲ受ケズ天子ハ天下ノ共主ナレ天子ノ百官ハ下ノ
事ヲ知ラガレバアラ子ドモ正シク天子ノ地トイフ者僅わずかニ内ナレ
何事モ輕ク小クアリシナリ秦漢以後ハ郡縣ナレバ天下一區ニテ四海
九州皆天子ノ地ナル故ニ天子ノ富三代以前ノ君ニクラブレ倍ニ餘
レリ是ニ因テ天子ノ尊大ナルコトモ古ニ越テ城郭宮室ノ制モ古昔
ニ超過セリ且又天下ノ郡縣ニ次第ノ官吏ヲ置ク故ニ朝廷ヨリ郡
縣ニテノ官吏ノ數周ノ代ニ幾倍トイフコトヲ知ラズ官職ノ制モ遙ニ

異ナリ漢書ニ官吏ノ員カズヲ書シテ佐史トイフヨリ以上丞相マデ十三
萬二百八十五人トイヘリフヒタシ夥キコトニ非ズヤ漢ヨリ以後ハ歷代沿革エホクアリテ
官制一定セズ然レドモ天下ヲ郡縣ニシテ治ムルコトハ同前ナル故
ニ官職モサノミ大ニ易カレルコトハ無キナリ三公ヲ六卿ノ外ニカタル時
モ有リ別ニ立タズシテ司徒司馬司空等ノ名ラツケテ卿ノ列ニ並タベタ
ル時モ有リ六卿モ周官ノ如ク備ハルニアラズ其名モ職ニ
易カレリ九卿ヲ立タル世モ有リ唐ノ代ヨリ六卿ヲ六曹吏部
戸部コホウ禮部レイホウ兵部ヘイホウ刑部ケイホウ工部コウホウノ官ヲ立ツ是スナハチ周ノ六官ニ依タテ立
タレドモ上ニ別ニ三公宰相ヲ置ク故ニ六部ノ官ハ周ノ六官ホトニ重
カラズ又漢ヨリ以後ハ六卿九卿ノ上ニ宰相トイフ者ヲ立テ天下ノ

政事ヲ行ハシム宰相ハ一人ナルベキコトナレドモ二人アリシ世モ有リ近
世明ノ代ニ至テ古ノ周官ノ例ニ倣ヒテ六部ノ尚書ヲ立テ周ノ六卿
ノ如ク萬機ノ事ヲ六ツニ分テ掌ラシム其位ヲ一品ニシテ甚貴キ者
ニセリ別ニ三公ヲ立テズ太師太傅太保ヲ立テ此三人ストハ尚
書ノ中何レニテモ三官ヲ領ズ然レドモ明ノ代モ後二トイ
フ官ヲ六尚書ノ上ニ置テ天子ノ師範トナリ夫ハ輔弼シ天下
ノ政ヲ執ラシム是スナハチ宰相ナリ今ノ清朝モ多分ハ明ノ官制ノ
如シト聞ユ中華ハ本来聖人神明ノ國ニテ三代以前ハ聖人出テ
テヒレ故ニ官職モ代々ニ不同ナレドモ皆聖人ノ制作ナリ秦漢以
後ハ聖人出タマハズ後ノ人心コトト思ヒクニ官職ヲ立テ時ノ便利ニ

順テ世ヲ治メシカバ古ノ先王ノ法ニ違^{タカ}ヒタル事モ多ケレドモ畢竟
聖人ノ制作ノ跡ヲ承^{ウケ}タル者ユヘニ末世ニナリテモ古制ノ形ノ遺^レリ
タル事少^ク有ルナリサレバ後世ニ至テ官職ヲ立ルニモ大本ヲ古
制ヨリ取ルニアラズシテハ叶ヒガタキ事ナリ日本ノ古推^シ皇^ノヨ
リ以前ハ官職ノ定制モ無リシニ推古ノ時廐戸皇子^ヲ推^シレ
シ時ヨリ官職ノ説始マリ其後稍^{シマウク}クニ唐ノ世ノ制ヲ取^リ
官ヲ立ラレタリ諸國ヲ治ムルコトモ郡縣ノ制ニ効テ設^ケイ^フズ
國司郡司ヲ置テ其政ヲ行ハシム朝廷ニハ太政大臣左大臣右大
臣ノ三大臣ヲ三公ト稱ス三大臣ニハ定^メル職掌ナクシテ其中ニ
一人天下ノ政ヲ執ル者ヲ關白トイフ是異國ノ宰相ニ當ル三公ノ

下ニ大納言中納言參議等ノ官アリテ三公ノ佐トナル參議ヲ後
世ニ宰相ト稱スルハ大ナル誤ナリ中務式部治部民部兵部刑部
大藏宮内ヲ八省トイフ是異國ノ六部ニ効テ置タレドモ位モ卑ク
官制頗^{ホト}異ナリ餘ノ諸官モ皆異國ニ効テ立タレドモ異國ノ
土地モ風俗モ同カラザル故ニ萬事少^クツノ易^カリ有^ル大^ニ武^ノ
職トラ別ツトバカリハ全ク異國ト同ジキナリカクハ華ノ制ニ
効テ百官ヲ立ラレシ誠ニ目出タキ經略ナレドモ公家ト^シ者^ノ
ラ世^ヨニシテ新^ニ人^ニ才^ヲ卑賤ヨリ取ラザル是中華ニ無キ事ニテ
我ガ日本ノ風俗大ニ政治ヲ害スル事ナリ鎌倉ノ右大將家ヨリ
以後ハ公家ノ政天下ニ及バサル故ニ皇朝ノ百官ハ皆有名無實

ノ物ニナリタリ、武家ノ世トナリテハ、上下ノ人學術ナキ故ニ古ラ稽ルコ
トモ無ク、百官ヲ立テ國家ヲ治ル計モ無ク、只因循シテ世ヲ送ルニ
ナリ、殊ニ當代ハ、戰國ノ中ヨリ、兵亂ヲ歷テ、其後
東照宮海内ヲ一統シタマヒシ故ニ、國初ノ時ハ、立官ノ議ニ及ビ、中
ノ法令ヲ其マニ、治國ノ方ニ用テ、萬事ヲ簡易ニ行ヒタマヒ、治平久
シキニ隨テ、朝廷ヨリ末ニ至ルマデ、事多クナルハ、世ノ習ナリ、當
リテ百官有司ヲ立テサレバ、事治リガタシ、然ルラ國初ノ簡易ヲ行
シ、時ノ如ク、軍中ノ法令ニテ治メントスルハ、諸工人ノ其道具ヲ用意セスシテ、
其事ヲ巧ニセントスルガ如シ、凡聊ノ小事ヲナスモ、ソレクノ有司執事ノ
役人ヲ立テズシテハ、事成就シガタシ、況ヤ國家ヲ治ムル極タル大事ナル

ヲ百官有司ナクテハ、如何ニシテ治ムルベキヤ、是必然ノ理ナリ、今ノ世ト
テモ、天下ニ大小ノ役人トイフ者ナキニアラズ、役人ハスナハチ官吏ナリ、
此外ニ百官トテ、如何様ノ事ヲ立置クベキヤト難ズル者アリ、是立官ノ
道ヲ知ラザレバ、今此難ニ因テ、官職ノ義ヲ略記シテ、志アル人ノ心ニ
立官ノ道ヲ明スコト左ノ如シ、

○凡官ニ必爵位アリ、爵位トハ位階ナリ、周ノ代ニハ位ニキヨクヨリ
數ヘテ一命ヨリ九命ニ至ル、譬ヘバ今ノ世ノ瞽法師ノ位階ノ如シ、命
ハ君上ヨリ爵ヲ賜ハル命ナリ、庶人ヨリ始テ爵命ヲ賜ハリテ士ト
ナルラ、一命トス、是今ノ九位ニ當ル、是ヨリ陞リテ九命ニ至テ極ニ
ル九命スナハチ今ノ一位ニ當ル、人臣ノ位是ヲ最上トス、秦ノ代ニハ

二十等ノ爵アリ、漢ノ代ハ爵位ノ名ナクシテ、禄秩ニテ階級ヲ定ム、
禄秩トハ俸米ノ高ナリ、俸ハ今ノ役料切米トイフ物ノ如シ、秩ハ其
高ナリ、三公ハ俸米萬石、其下ハ中二千石、二千石、比二千石、千石、比
千石、八百石、比八百石、六百石、比六百石、五百石、比五百石、四百石、比四
百石、三百石、比三百石、二百石、比二百石、百石、凡テ二十等ナ
リ、中ハ滿ノ義比ハナシトイフ意ナリ、中二千石ヨリ、二千石、比二千石、
千石ヨリ、比二千石ハ又少シ、廩米ヲ取ルニ分量多少アリ、百石ノ下ハ
皆小吏ナリ、三國ノ時ヨリ以後ハ又爵位アリ、唐ノ代ハ一品、丹、九
品、テノ位階ヲ定ム、一級ニ正從二等アリテ、凡テ十八等ナリ、正ト
イフハ本等ナリ、從ハ今ノ世ニ某ノ並トイフガ如ク、本等ノ爵ノ後

ニ從フ義ナリ、此十八等ハ唐ヨリ以後皆然ナリ、日本ニテモ公家
ノ世ハ唐ノ制ニ倣テ、一位ヨリ九位、テノ位階ヲ定ム、一位ヨリ八
位、テハ各正從アリ、四位以下ハ正ニモ從ニモ上下アリテ、四等ト
ナル、九位ヲ初位ト名ツケテ、是ニ又太少上下ヲ分ケ、是モ亦四
等ナリ、凡テ正一位ヨリ、少初位下、テ三十等ナリ、總シテ官人
ノ禮法ハ官ノ高下ニ拘ハラズ、爵位ノ高下ニテ尊卑ヲ定ムルナリ、
其故ハ官ノ高下ハ定マリタル物ニテ、別段ノ恩賞ニ因テハ位階
バカリ昇進スルコト有ル故ニ、官人ノ尊卑ハ位階ニテ分ルナリ、恩
トイフハ君ノ親戚或ハ何ニテモ由緒アル者ヲバ位階ヲ陞セフル
コト有リ、賞トイフハ褒美ナリ、其官ノ上ニテ功勞アル者ハ褒美

ニ位階ヲ陞スルナリ、官職ハ人々ノ才能ニ叶ヘル事ヲ任ズル物ナ
レバ、輒ク遷シ易ヘヌナリ、武家ニハ爵位トイフ物ナクシテ、役ニ高下
ヲアラシメテ、恩賞ノ事アレバ、才能ノ可否ヲ問ハズ、下キ役ヨリ高キ
役ニ遷ス事アリ、是大ニ政事ノ害ナリ、當代ハ少々公家ノ爵イ
テ假テ、四位五位六位ノ三等ノ位階アレドモ、僅ニ此三等ノ位ニテ六
位ノ下ハ皆無位ナリ、箇様ニ位階少クテハ、尊卑高下ヲ定メ、様
ナキ故ニ從來ノ如ク、役ニテ尊卑ヲ別ツコトヲ免レズ、是立
道ニ非ズサレバ、古ヨリ官ニハ必爵位ヲ定ムルナリ、
○凡官ニハ必人ノ数ヲ定ム、官人ノ数ヲ負トイフ、一人ニ限ル官アリ、
二人三人乃至十人二十人ニスル官モ有リ、是所要ノ事ナリ、六卿ノ

如キハイフニ及バズ、何ニテモ政事ヲ行ヒ、判断ヲ用ル官ハ必一人ニ
限ル、若二人三人ナレバ、決斷ナリガタク、イツモ衆議判ニ落テ、縱其
中ニ一人器量ノ者アリテ、上策ヲ思ヒツケテモ、同役ノ心ヲ兼憚テ、
言ヲ出サズ、縱言ヲ出シテモ、人心同カラヌコト、面ノ同カラス、如ク
衆議トリバ、一ニテ一決セズ、如何ナル上策モ行ハズシテ、多
シ且官事ハ權ヲ以テ行フ物ナレ、同役二人モ三ツモ、同役ノ
權イタクツニモ分レテ、下ノ人其役人ヲ畏レズ、此方ニテ処メラルレバ、
彼方ヘ取入テ憐ラ乞ヒ、彼方ニテ処メラルレバ、此方ヘ取入テ憐
ラ乞フ様ナル事アリ、窮鳥入懷トイフ如クニテ、我が方ヘヒシク取入
テ、憐ラ乞フ者アレバ、自然ニ心傾クハ人情ナリ、同役ノ中ニテ一人ハ

コレヲ惡^{ニク}ミ一人ハコレヲ愛スル時ハ議論^{カチヌ}必一決セズ是ヨリ役ノ權モ輕クナリテ政事ノ行ハレ又端トナル周易ニ一君ニ民ハ君子ノ道ナリ二君一民ハ小人ノ道ナリトイヘリ今ノ政ハスナハチ二君一民ナリ又月番^ジトイフ事ハ番衆ノ上ニ有ル事ナリ異國ニテ郎官トイフハ此方ノ番衆ノ如クナル者ナリ彼郎官ニハ更番^{カウジ}トテ更代^シテ其役所ヲアケヌ又様ニスル是ニ一日ニテ代ハルモ有リ五日十日ニテ代ハルモ有リ或ハ一時トテ三月ニテ代ハルモ有リ半年一年ニテ代ハルモ有リ當ル^チ直トイフ此方ニテ當番トイフガ如シ一日ノ當番ヲ直トイフ一月ノ當番ヲ直月トイフ一年ノ當番ヲ直歲トイフ直月ハ此方ノ月番ナリ直歲ハ此方ノ年番ナリカクノ如ク番衆ノ上ニ有ル

事ヲ政事ヲ行フ役人ノ方ニ取用テ同役數ハニテ政事ヲ一月ツ輪番ニ行ヒテ廻^マスコト以テノ外ナル怪事^{クワイシ}ナリ輪番ニテ主トシバ人々其心ニ合セテ行フ故ニ政事一定セズ威權^{イケン}モ立たズ下ニテ政ヲ受ル者モ人々思ヒ附^{ツキ}ニ隨テ朋黨^{ホウタク}モ出来ル政事ノ敗ル^セ基^{モト}ニ其國ニハ勿論ナリ吾國ニモ公家武家ノ世ニ月番トイフ事ハ終^{ツキ}ニ未コレアラズ當代ニ始^ハレル事ニテ甚シキ非法ナリサレバ立官^{ツキ}ノ事ヲ行フ官ハ必一人ニ定ムルナリ又國家ヲ治ムル道ハ政事ヲ人々任^ニスルヲ善シトス委^ニノ字ヲバユダスルマカスルスツルト訓ズユダスルトイフモ人ニ打^ツマカスルコトナリ人ニマカスルハ其事ヲステモノニスル意ニテ如何様ニスルヲモ此方ヨリカマハ又故ニ委^ニノ字ニ棄^{スツ}ル意アルナリ下ノ上ニ事

ル道上ヨリ其事ヲ我ニ打マカセラレバ何ホドノ忠臣ニテモナリ分ニ心
カラ盡シガタキ物ナリ心ヲ遣シ事ヲ扣ユル様ニアリテハ政事行ヒズ
善政ハ出来ラズ上ヨリ我ニ打マカセラレバ上ノ目ガ子ヲ大節ニ思
ヒ又我モ何トゾ此事ニテ功ヲ立ント思フ故ニ縦中品ノ人ニテモ有
ホドノ智慧ヲ振ヒ出シ精カラ盡ス故ニ思ノ外ニ事ノ成ルガタキ
モ成就スルナリ又至テ姦邪ナル者ハ恃メズ大抵ノ人ニ
我ヲ憑テ打マカセラレタル事ニハ私曲モ怠慢モナリガタキ物
故ニ古ヨリ明君ハ必臣下ニ委任セラル漢ノ高祖ノイマダ漢王ニテ
オハセシ時黄金四萬斤ヲ陳平ニ持セテ此金ニテ楚ノ軍中へ
反間ヲ遣ラシメテ其金ノ出入ヲ問ヒタマハマガ如キ英雄ノ作略

トイヒツヘシ委任トイフハ箇様ノ事ライフナリ然ルニ此委任トイフ
事モ役人数多アリテハナリガタシ唯一人ナレバ如何様ニモオイセラ
ルナリ二人三人ニ命ジテハ委任トイフ物ニ非ズカクノ如クノ子細アル故
ニ官人ハ必一人ニ限ルナリ異國ニテ六卿ヲ立ルハ六人ナレドモ各
掌アル故ニ六人ノ中ニテモ互ニ人ノ官ヲハ少モイロハズ一官一
リラ其卿一人ニテサバクナリ若一人ノ處カニ疑感アリテ自
テ決レガタキ事アレバ六卿互ニ相談スル事モ有レドモ人ノ知
リ人ノ思ハクヲ聞クバカリニテ畢竟ノ決斷ハ我一人ニテ定ムナリ然
レバ六卿トテ六人アリテモ月番トイフ事ハ決レテコレ無シ百官ノ中
ニテ負ラ多クシテ二人三人乃至十人二十人アルモ有リタトハ行人

トイフハ今ノ世ノ使番ナリ。謁者トイフハ今ノ奏者ナリ。給事中、舎人
ナドイフハ今ノ小姓近習ナリ。監トイフハ今ノ目付ナリ。箇様ノ類ハ
一人ニテハス。又故ニ幾人モ置テ用ノ足ル様事ノ欠ケヌ様ニルナリ。
此等ノ官ハ政事ヲ行フ役ニ非ズ。決斷ヲ用ヒタル役ナレバナリ。輕キ
官ニテモ、決斷ノ入ル役ハ必二人ト立テズ。一人ニ限ル。是立ニ本意
ナリ。

○凡立官ノ道ハ一官ニ必三等四等ノ役人アリ。其一官ノ首ノ長官
トイフ。長官ハ必一人ナリ。其下ニ副トイフ者アリ。副ノ字ハソフト訓不
又立ガハリカケガヘノ役ナリ。副ハ佐ナリ。長官ヲ佐クルリ今ノモ
副後トイフ者ナリ。此副ハ二人モ三人モ有リ。一人ナルモ有リ。官ノ大

小輕重ニ因ル。長官ノ病氣、其外指合アル時ハ此副ナル者長官ニ代
リテ長官ノ事ヲ務ム。常ニ長官ノ職事ヲ佐テ、其勞ヲ省キ又ハ
當職ノ事ヲ二ツモ三ツモ分テ司ドルモ有リ。此副ヲ明朝ニテハ佐
貳官トイフ。貳ノ字モ副ノ字ノ意ナリ。副ノ下ニ又一等ノ佐アリ。今ノ
世ノ書役或ハ勘定人ナドノ類ナル者ナリ。又其下ニ記録、所ナリ。
或ハ裁ラ預カル様ナル者アリ。畢竟周官ノ府史トイフ。此等
ハ皆人数ニ多少アリ。凡官ノ下ニハ吏トイフ者アリ。今ノ世ノ與力手
代ナドイフ者ノ如シ。異國ニテハ官ノ務ヲ職トイヒ。吏ノ務ヲ役トイフ。
畢竟吏トイフハ下役ノコトナリ。吏ノ下ニ卒トイフ者アリ。官人ノ使
ヒモノナリ。今ノ足輕中間ノ如シ。此吏卒ハ何レノ官ニモコレ有リ。畢

竟周官ノ胥徒ナリ日本ノ古ノ百官ニモ皆四等ノ役人アリ一ラ
長官トイフ次ラ次官トイフ三ラ判官トイフ四ラ主典トイフ主典ハ
記録ヲ司ド此四等何レノ官ニモ有リタトヘバ中務等ノ八省ノ
卿ハ長官ナリ大輔少輔ハ次官ナリ丞ハ判官ナリ録ハ主典ナリ諸
寮ノ頭ハ長官ナリ助ハ次官ナリ允ハ判官ナリ屬ハ主典ナリ諸
司ノ正ハ長官ナリ佐ハ判官ナリ令史ハ主典ナリ詔司ハ次官
ナレ諸國ノ守ハ長官ナリ介ハ次官ナリ掾ハ判官ナリ目ハ
主典ナリ他ノ諸官モ皆然ナリサレバ長官ノ政事ニ疑惑アレ
バ次官判官主典ニテモ打ヨリテ論議シテ其上ノ決斷ハ長
官一人ニテ行フ凡官ハカクノ如クナルベキ物ナルニ當代ハ諸役ニ

箇様ノ事ナレ唯勘定奉行ガカリ官制ニ似タリ奉行ノ下ニ
吟味役トイフ者四五人アリ又其下ニ勘定衆トイフ者數十人ア
リ勘定衆ニモ上中下三等アリ又下ニ同心トイフ者アリ是輕
ナリ是官制ニ似タレドモ長官ノ勘定奉行トイフ者只一
ベキニ三四人アリテ月番ニテ其役ヲ務ムル是官制ニ違ヘ
ドモ他ノ諸役ニハ是ホドノ事モ無シ老中ナドハ天下ノ政事ヲ
行フ役ナルニコレラ佐クル下役ナレ歎カシキ事ナリ
○凡官ニハ必職掌トイフコト有リ職トハ役目ナリ何ノ官ハ何ノ
事ヲ掌ル何ノ事ヲ役ニシテ務ムルトイフコト有リ先百官ノ職
ヲニツニ分テ文職武職ト定テ混ゼヌ様ニスル是第一ノ義ナリ

異國ノ書ニ文武ノ官人トイフハ是ナリ當代ハ文職武職混雜
シテ分レズ是大本ヲ失ヘリサテ文職武職ノ中ニテ又下官一官
ニ其職掌ヲ正シク分テ定置クベキニ當代ノ諸役ハ職掌サダヤ
ナラス執政老中ハ天下ノ政事ヲ出ス役ナルニ幾人アリモ人々ニ
職掌ヲ分ケズ月番ニテ事ヲ行フ是大ナル違ヒリサレバ何事
ニテモ執政ノ役ノ上ノ事ヲ時ニ臨テ一人ニ命ゼラレバ辰キ
トテ拜謝ス當職ノ事ヲ其役ニテ務ムルニ何ゾ新ク命ゼ
ルコト有シ何ゾ又是ラ辱キトテ拜謝スルコト有シマ是大ナル
誤ナリ官人ノ法ハタトヘバ宗廟社稷ヲ祭ムマフヘキ時節ニ大
宗伯トテ祭祀ヲ掌ル官人ヨリ言上シテ上意ヲ承テ下ノ諸

官人ニ命マラ行テ其用意ヲ致スコトナリ然ルラ今ハ大祭祀ノ
事アレバ老中ニテ一人寺社奉行等ノ諸役人々各一以ゾ
召テ其事ヲ命ゼラル同役數多アル中ニテ時ニ臨テ一人ニ命
ゼラルレバ辱キトテ拜謝スル謂レ有ル様ナル事レドモ上モ
勞煩ナル事ナリ且必シモ人オラ擇テ命ゼラル
モ順次ヲ以テ務ムル事ナレバ特恩トイフ物ニテモナギ辰キトテ
拜謝スル諛ニ近シ兼テヨリ一人ノ身ニ職掌定マリアレバ時
ニ臨テ命ゼラルニモ及バズ拜謝スルコトモ無シ萬事皆此類
ナリ今ノ老中ハ異國ノ六部ノ尚書ヲ如クナル者ナレバ六卿ノ
如ク一人一人ニ職ヲ分テ掌ラシムベキ事ナリ左モアラバ不才

ナル人ハアグミテ困ムコトモ有ルベケレドモ少モ才略アル人ハ願望スル所ナク決断シマスカルベシ不賢ナル人ハ過失モ有ルベケレドモ賢能ヲサヘ用ラレバ大ニ政事ニ益アリテ國家ノ光ヲ増スベキナリ老中ヨリ下ニテ國家ノ政事ニ預カル重キ役ハ執事ナリ寺社奉行ナリ町奉行ナリ勘定奉行ナリ執事ハ執政ニテテ國政ヲ議スル故ニ是ヲ若年寄トイフ異國ノ叅知政事ノ官ハ如シ旗本ノ士大夫ヲ主ドリ奥方ノ政ヲ聽キ納戸衆臺所ヲ主ドリ米穀金銀貨財ノ出納ヲ主ドル甚重キ職ナリ然レバ長官ヲ一人ニ定テ佐貳官ヲ三等モ四等モ附ラルベキ者ナルヲ同役數多ニテ月番送りニスルコト甚不可ナル事ナリ寺社奉行ハ天下ノ神社

寺院僧尼巫祝ノ類ヲ主ドリ又遠國ノ町人代官所ノ外ノ百姓ヲ主トル甚重キ役ナリ殊ニ獄訟ヲモ決断スル役ナリ長官一人ニシテ佐貳官ヲ數多附ラルベキニ同役三四人ニテ月番送りニスルコト心得ヌ事ナリ町奉行ハ東都ノ市塵ヲ主ドリ工商ノ類ハ町人タラシラ主トル是亦長官一人ニ佐貳官ヲ數多附ラルベキ事ナリ然レドモ都下ハ極テ廣キ處ニテ事モ甚多ケレバ一官ニテハ政令行ヒガタキコト有リサレバ都下ノ地ヲ二ツニモ三ツニモ四ツニモ分テ其令タル數ホド官ヲ置テ主トシラシムベシ昔漢ノ代ニ長安ノ京ヲ三ツニ分テ京兆左馮翊右扶風ト名ツケテ官ヲ置タリ是ニ倂テ日本ニテモ公家ノ世ニハ平安城ノ都ヲ東西ニツニ分テ東京ヲ左京ト名ツケ西京ヲ右京

ト名ツケテ官ヲ兩處ニ立テ治メシム其長官ヲ左京大夫右京大夫ト
イフ次官ヲ亮トイヒ判官ヲ進トイヒ主典ヲ屬トイフ此左京右京
ノ官ヲ京職トイフ當代ノ所司是ニ似タリ京職ノ下ニ又市正トイフ
官ヲ置テ市町ノ事ヲ主トラシム左京ノ下ナルヲ東市正トイヒ右京
ノ下ナルヲ西市正トイフ是ニモ下役アリテ判官ヲ佐トイヒ主典ヲ令
史トイフカクノ如クアリテコソ職掌分レテ政事ノ決断モナルベキニ今テ
ハ町奉行二人モ三人モ有テ月番送リニスル甚官ニ違ハリ勘定奉
行ハ古ノ司徒ト司空トノ職ヲ兼タル様ナル役ニテ後世ノ大司農
ノ官ノ如シ日本ノ公家ノ世ノ民部主計ノ如クナル者ナリ昔ニ比ス
ル今テノ勘定奉行ハ位卑シ此役ニハ上ニイヒシ如ク佐貳官數多

アリ官制ニ近ケドモ長官ヲ一人ニ定メラズ同役數多ニテ月
番送リニスルコト不可ナリ遠方ノ役人モ其處ニテ政令ヲ行ヒ獄訟
等ヲ判断スルホドノ役ハ皆長官一人ニ定ムルコト伏見奈良堺山
田等ノ奉行ノ如クニシテ次ニ佐貳官ヲ相稱ニ附ラルベキ者
左モアレバ長官ノ指合タル時ハ佐貳官其代リテ務メ又長官ノ心ニ
疑惑アル様ナルハ六カシキ事ハ佐貳官小吏ニテモ打ヨリテ僉議シテ
其上ノ決断ハ長官一人ニテ行フベシ又長官遷リ替リテ新官其
跡ヘスワリタル時佐貳官以下ノ者ハ前ヨリ務來レル者ニテ其官ノ
法式等ヲ能ク心得テ居ル故ニ只今ノ新シキ官人ニテモ政事ヲ行
フニ指支ユルコト無シ箇様ニ萬端ニ付テ便利ナルコト多シ天下ヲ

平均ニ治ル道是ヨリ肝要ナル事ハ無シサレバ國家ヲ治ルニ何ゾ
官職ヲ立ガランヤ

○凡百官ヲ立ル法ハ執政ヨリ以下末々ニテ何レノ官モ必役所ヲ
立ツ是ラ官府トイフ或ハ曹トイヒ或ハ司トイヒ所トイヒ局トイヒ務
トイフ色々ノ名アレドモ皆官府ナリ役所ナリ其ノ官ノ人毎日此役
所ニ會集シテソレノ事務ヲナスナリ官府ニ必蔵ヲ建テ其ノ管
ノ記録諸道具ヲ入レ置クサレバ官人ハ易レトモ官府ハ永ク易ラヌ
故ニイツニテモ其官ノ故事先例ヲ尋ルニ滞ル無シ官府ノ作リハ
朝廷ノ外ニ別クニ建ルナリ日本ニテモ公家ノ世大内裏ノ時ハ然
アリシナリ當代ハ執政ヨリ以下何レノ役モ官府アルコト無シ只勘

定奉行ばかり朝廷ノ外ニ勘定所トイフ處アリ是官府ニ似タリ
町奉行モ役屋鋪トイフ者アレバ是モ官府ナリ此ニ役ノ外ハ官府
ナレ寺社奉行ナドハ面々其宅ニテ政事ヲ行フ故ニ記録等ア
リテモ面々ノ藏ニ入レ置テ其役ヲ免ジタリ其記録
人ニ見スルコトモ無ク果ハ反故トナル是官府ニアラザル故ナ
何ニテモ久シキ昔ノ故事ナドヲ考ントスル時舊記ヲ出ルコト無クシテ
下ノ其政ヲ受ル者ニ命ジテ先例ヲ録呈セシ其例ノ如ク行フ
諸役皆然ナリ是上ノ人下ノ政ヲ受ルナリ箇様ノ事ハ官ノ制ニ於
テ有ルベキ事ニ非ズ凡公事ヲ私第ニテ行フコトハ古ヨリ甚禁ズル
事ナリ私第トハ己ガ宅ナリ今ノ役人ハ皆公事ヲ私第ニテ行フ

役人ノ私ニ非ズ官府ナキ故ナリ

○凡百官ノ官人ヨリ出ス書キ物ヲ文書トイフ上へ奉ルニモ下へ下スニモ必官名ヲ書シテ下ニ具官人ノ名ヲ書ス異國ハ勿論ナリ日本ニテモ公家ハ古ヨリ今ニ至ルニテ然ナリ當代武家ニテハ官制ナキ故ニ文書ニモ記録ニモ官名ヲ書セズ名ヲ書セズ苗字ト常ニ稱スル假名バカリヲ書スタトヘバ本多佐渡守青山大藏大輔ナド、昔ス上ニ役ノ名ヲ書セザル故ニ此文書ヲ出シタル人ハ老中カ寺社奉行カ何ノ役ニテアリシトイフコト知レズ名トイフハ今ノ名乗ナリ佐渡守大藏大輔ナドイフ實名ニハ非ズ本ハ官名ナレトモ官ニハ必職アリ今ハ佐渡守ニテ佐渡國ヲ治ムルニ非ズ大藏大輔トテ大藏

職事ヲ務ムルニ非ズ只古ノ官名ヲ取テ常ノ稱號トシタル物ナレバ假名トモイフベキ者ナリ此假名ハ父子代々襲テ稱スルコト世ニ多キラ是バカリヲ書シテ實名ヲ下ニ書セザレバ子ガ孫カレノ人トイフコト知レズ殊ニ松平ナドハ國姓カレバ松平氏ノ人同假名ノ人数多アリ又役ハ度々易ハル事ナレバ縱其人トコロモ何ノ役ノ時出シタル文書トイフコト知レガタシ當時三年五年ノ内ニテサヘ知レガタキコト有リ増テ数十年ヲ歷テハ如何ニシラコトヲ知シヤ是大ニ歎カシキ事ナリ又異國ニテハ官人ニハ必官ノ印アリテ天子ヨリ賜ハルラ文書ニハ必官ノ印ヲ打ス今此方ノ武家ニテハ官印ナキ故ニ文書ニ私印ヲ打ス是亦非禮ナリ

○當代武家ノ諸役皆官制ニ違テ政事ノ害トナルコト多ケレドモ
他ノ事ハ姑論ゼス中ニ就テ甚シク政事ノ障トナルコトニツ有リ
一ツハ斷獄ノ官ヲ立ラズニツハ問刑ノ官ヲ立ラズ此ニツノ
官ハ必別ニ立ツベキ官ナリ一ツニ斷獄トハ獄訟ヲ聽ク官ナリ
獄訟トハ今ノ世俗ニ公事トイフ是ナリ對頭アリテ爭論ス
獄訟トイフ獄訟ヲ判斷スル官ヲバ必別ニ立テ士大夫ヨリ
工商賈僧尼巫祝ニテノ獄訟ヲ只一官ニ聽ク様ニアルヤ
ナリ異國ニテハ斷獄ノ官ヲ大理ト名ヅク日本ニテハ公家ノ世
檢非違使ノ官ヲ異國ノ大理ニ擬ヘタレモ檢非違使ハ今ノ
世ノ盜賊奉行ノ様ナル官ナリ異國ノ大理ハ獄訟ヲ折クノミ

ナリ當代ハ寺社奉行町奉行勘定奉行三奉行所ニテ各其支
配ノ獄訟ヲ聽ク寺社ノ訟ヲハ寺社奉行所ニテ聽ク町人ノ
訟ヲハ町奉行所ニテ聽ク百姓ノ訟ヲハ勘定奉行所ニテ聽ク
凡獄訟ニハ必對頭アリテ曲直ヲ爭論スルナリ然レバ俱ニ
所ノ支配ナレバ其奉行所ニテ打ク勿論ナリ然ルニ獄訟ハ
ニ定マリ無キ物ナレバ支配ノ異ナル者ト訟ヲ取結ビタル一方ノ
奉行所ニテ折クベキ様ナキニヨリテ雙方ヲ評定所ニ召テ三奉
行會合シテ同時ニコレヲ聽キ判斷モ三奉行相議シテコレヲ決ス
是衆議判ナリ斷トイフ物ニ非ズ凡テ官人ハ私ヲ懷カズ偏頗
アルマシキコト勿論ナレドモ何レノ官ニテモ其支配ノ者ヲバ回護

スル人情ナリ、回護トハ人ヲカバヒテタスクルナリ、評定所ニテ彼支配
此支配跨^タカリタル訟^{ソウ}ヲ三奉行コレヲ折^サク時如何ホト私ラ懐カス
偏頗^{ヘン}ナキ様ニト思フトモ寺社奉行ハ寺社ノ方ヲ回護シ町奉行ハ
町人ヲ回護シ勘定奉行ハ百姓ヲ回護スル心^{ココロ}キトイフコトハ有ル
マヅキナリ、左モアランニハ何レノ處ヨリ決断^{ケツ}ノ詞^{コト}ヲ出サシムルハ衆議
判^ハニテ多分^タニ附テ事ヲ治ムルヨリ外ノ道ナレ、是^{コト}何ノ正^マシキヤ
ラシマ、且^{ソノ}獄訟^{ソウ}ハ百姓町人寺社人ノミニ限ラズ士^シノ中^{ナカ}ニモ有^アリ
ナリ、左様ノ獄訟^{ソウ}ヲバ何人ニ折^サカシメシマ、三奉行^{サン}ノ中^{ナカ}ニモ有^アリ
人ナリ、一人モ其事ヲ我身ニ任^ニジテ決断スル者、只^タ口^クニニ理窟^リ
ヲ言^イフバカリニテ一途^{イツ}ニ落着^{ラク}スルコト無^クシタル故^ユニ官^{クワン}ノ立^タル道^{ミチ}ハ断獄^{タン}
ノ

官^{クワン}ヲ一官^{イツクワン}ニ定置^{テイ}テ長官^{チヤウクワン}一人ニ佐貳^{サジ}官^{クワン}ヲ数^{カズ}多^タ附^{ツケ}テ國中^{クニナカ}ノ人ノ
獄訟^{ソウ}ヲ只^タ一官^{イツクワン}ニテ折^サカシムルナリ、當代^{トウダイ}モ此官^{コノクワン}ニ立^タラレテ獄訟^{ソウ}ト
イフ獄訟^{ソウ}ヲバ何レノ支配^シノ者^{モノ}ナリトモ皆是^{コト}ニ折^サカシメテ三奉行^{サン}ハ公^{コウ}
レ^ノ政令^{セイレイ}ヲ行^ユヒ其下^{シノ}ヲ治^シムルノミニテ有^ルベキ、刑^{ケイ}官^{クワン}
罰^{バツ}ヲ行^ユフ官^{クワン}ナリ、刑罰^{ケイバツ}ヲ行^ユフヲ問^ト刑^{ケイ}トイフ、問^ト刑^{ケイ}ノ官^{クワン}ヲ必^{カナラ}
立^タルコト古^コヨリノ法^{ホウ}ナリ、異國^{イコク}ニテハ大司寇^{ダイシコウ}刑^{ケイ}官^{クワン}ナリ、日本^{ニッポン}ニテ
モ公家^{コウカ}ノ世^ヨニハ刑部^{ケイブ}卿^{キヤウ}スナハチ刑^{ケイ}官^{クワン}ノ長^{チヤウ}ナリ、卿^{キヤウ}ノ下^ノニ輔^ホ丞^{テイ}録^{ロク}ト
テ三等^{サン}ノ佐貳^{サジ}官^{クワン}アリ、一切^{イツ}ノ刑^{ケイ}ヲ主^ツトル刑^{ケイ}官^{クワン}ニ民^{ミン}ヲ支配^シスルコト
無^クシ支配^シスルト刑^{ケイ}ヲ行^ユフトハ一官^{イツクワン}ニ混雜^{コン}ス、マヅキ義^ギアル故^ユナリ、其
義^ギトイフハ上^ウニイヘル如^カク支配^シノ者^{モノ}ヲバ必^{カナラ}回護^{カウゴ}スル心^{ココロ}アル、是人^{コト}人情^{ニヤウ}ナ

リ人情ハ人ノ内心ノ實情ナル故ニ是ニ悖リテハ何事モ指支ヘテ
行ハレヌ物ナリ故ニ古ヨリ刑官ヲ別ニ立テ六卿ニ列シテ重キ職
トセリ人ヲ刑スルハ大事ナル故ニ是ヲ重キ職トシテ殊ニ其人ヲ擇
ブナリ當代ハ此刑官ヲ別ニ立ラズ寺社奉行町奉行勘定奉
行盜賊奉行此四奉行面々ニ刑罰ヲ行ス是甚官制ノ法ニ非
ズ其子細ハ刑ハ人ノ畏ル所ナリ寺社ト町ト勘定ト此三奉行
皆民ヲ治ムル役ナリ盜賊奉行ハ民ヲ治ムル役ニハアラナド
悪ノ者ヲ捕フル役ナリ此四奉行ハ其奉行所ニテ刑ヲ行フ事
キ義ナリ今ハ此四奉行皆面々ニ刑ヲ行フ故ニ刑ノ權ヲ以テ支
配ノ民ヲ扱カス様ノ私曲生ジマス奉行タル人ハ左様ノ私曲

アルミジケレドモ下ノ小吏ノ輩刑殺ノ威ヲ以テ小民ヲ懼レ扱カシ
テ貨賂ヲ求ル事アリヤス刑ヲバ刑官ニテ行フ事ニ定マリ又レ
バ小吏ノ輩左様ノ姦ヲナスコト能ハズ又刑ヲ行フハ至テ大事
ナレバ正大公明ノ人ニアラザレバ能ハズ右ノ四奉行モ皆正大
人ナルベケレドモ上ニイヒシ如ク我が支配ノ民ト他ノ奉行ノ
ノ民ト取結ビタル訟ヲ判断ノ上ニテ一方ニ事ヲ雙方ニテモ罪ア
バ刑ヲ當ツル時人情ニテ我が支配ノ民ヲバ回護スル心アル故ニ覺
エズ正大公明ヲ取ハズ事アリ是小事ニ非ズ大ニ政ノ害ナリ然
レバ刑官ヲバ別ニ立テ士農工商其外出家社人凡ノ人民ノ刑
ヲ一官ニテ行ハシメラルベギナリ當代百官ヲ立ラズ今ノ如クノ

諸役ニテアルベクトモ此理官ト刑官トラバ別ニ立ラル様ニアラホ
シキナリ當代諸侯ノ國ニハ左様ノ制ナル處モ有リト聞ケリ

○當代武家ノ諸役世ノ治平久シキニ隨テ事多クナリ来リテ役
ノ品モ増加シテ萬機ノ政務ニ於テ遺ル所ナシト見ユ然レドモ愚
意竊ニ古ヲ稽テ思フニ今ノ世ニ無クテ叶ハサル役ノ闕々若三
ツ有リ一ツニハ方伯ノ職ニツニハ宗正ノ官ニツニハ太僕ノ官ナリ
ツニ方伯トイフハ諸侯ノ長ナリ異國ノ古封建ノ世ニハ天子ノ
姓ノ諸侯ノ中ニテ徳アル人ヲ二人擇テ諸侯ノ長トシ天下ノ諸
侯ヲ東ト西トニツニ分テ二人ノ方伯ニ屬セシメ是ヲ東伯西伯
ト稱ス周ノ文王ヲ西伯トイフ殷ノ代ノ方伯ナリシ故ナリ殷ノ代

ニハ同姓ヲ擇ブニモ限ラザリト見ユ周ノ代ニハ同姓ヲ用ラレタリ総
ジテ天下ノ人犬モ小モ統ル所ナクテハ叶ヒカタシ諸侯ハ天子ニ次テ
重キ者ナレドモ屬スル所アリテ天子ヨリ一等下ニテコレヲ統治スル
者ナクテ叶ハサル事ナル故ニ方伯ヲ立タリ方伯ノ下ニ又連帥
ヲ立置テ小グリヲシタリ連帥トハ帥ハ將帥ノ意ニテ下ヲ
ル者ヲ帥トイフ俗ニヒキマストイフ意ナリ連トイフハ其方角ノモヨ
リクニテ五國十國ホド與アヒテ諸事ヲ相約シテカラ合スル様ニ
スルヲ與國トイフ諸侯ノ中ニテ其與國ヲ引ツレ引マハス者ヲ連帥
トイフ此連帥ハ方伯一人ノ下ニ幾人モ有リカクノ如ク諸侯ニ長
ヲ立置テ天下ノ諸侯ヲ治ムル故ニ異國ノ書ニ方伯連帥トイフ

名目見ユナリ前ニイヘル如ク秦漢ヨリ以後ハ郡縣ナレバ方伯連
帥トイフ者ナシ郡守縣令トイフ者ハ郡縣ヲ治ムル官ナレドモ當代ノ
郡代ナドノ様ナル者ニテ其重キ者ナリ然レバ方伯連帥トイフ者モ無
キナリ日本モ公家ノ世ハ郡縣ノ治ナレバ方伯連帥トイフ者モ無キ
コト勿論ナリ當代ハ不思議ニ封建ノ制トナリテ萬石以上ノ諸侯
三百ニ近シ萬石ニ滿ガレ更代ノ寄合衆トイフ者ハ小諸侯ナリ不
合シテハ三百ホドノ諸侯ナレバ是ヲ東西ニツミモ分テ統治ムル人
姓ノ諸侯若ハ譜第昵近ノ諸侯ノ中ニテ其以テ一國ニ置レバ甚政
事ノ便利ナルベシ此方伯ノ職ナキ故ニ諸侯ヲ執政コレヲ主トシ執
政數多アレバ月番ニテ輪番ニ其政令ヲ主トシ是ハ大ニ古制ニ違テ

不便利ナル事ナリニツニ宗正トイフハ宗室ナリ人主ノ兄弟其
外親シキ同族ヲ宗室トイフ宗正トイフ官ハ宗室ノ面々ラ主トシ
テ其政令ヲ出シ其行跡ヲ正ス官ナリ異國ニテハ宗正トイフ
本ニテ公家ノ世ニ正親正トイフ官是ニ當ルナリ異國ニテハ
ノ人ヲ用フ日本ニテハ同姓ニモ限ラズト見ユ此官ヲ立ル意ハ宗室
君ノ一族ナレバ人臣トイヒナガラ極テ貴キ人ニテ其祿モ厚ケレバ高
貴ナルト上ニ親キトノ故ヲ以テ驕奢淫佚ノ不行跡ヲ勸クコト多
シ縱其臣下ナドニ忠信ノ者アリテ諫止ムルトモ富貴ノ人ノ習ニ
テ畏ロシキ事ナケレバ聽納ルコト無シサル故ニ宗正トイフ官人ヲ
立テ宗室ノ面々ノ行儀ヲ正シ其上ニ若宗正ノ手ニ餘ル事ア

レバ天子ニ言上シテ天子ヨリ黜罰^{チウバツ}ヲ行ヒタマフ是ニヨリテ宗室ハ
此宗正ノ官人ヲ常ニ畏ル^{ラフ}ナリ宗室ノ畏ル^ル者ヲ立置ク宗室
ノ方ニ悪事ナキ様ニトノ防ナリ^{フエキ}異國ニテ古ハ諸侯ノ國ニモ此官ア
リ公族大夫トイフ是ナリ楚國ニテハ三閭大夫トイフ昭氏屈氏景氏
トテ楚王ノ一族三家ニ分レテ三處ニ居ルラ主トル^{ツカサ}故ニカクツケタ
屈原此官ニテアリシナリ當代ハ尾張紀伊水戸ノ三國ヲ始トシテ
宗室ノ累葉^{レイエラ}歳ラ逐^{ヲヒ}テ繁榮ス

國家ノ政教^{セイカウ}修レル故ニ宗室ニ驕奢淫佚ノ過^{タガ}無クナ
ハ目出タキ事ナリ然レドモ古詩ニ君子防未然^{ツナ}ナ云リ禍ノ出来
ラ又前ニ其防ラ致スハ聖人ノ道ナリ貧賤^{ヒンケン}ノ身ニテモ必畏ル^ル者

ナクテハ叶ハズ増テ富貴ノ人ニハ常ニ畏ル^ル者アレハ慎^{ツヨク}ノ便^{ツヨク}ナリテ
悪事ノ防トナルナリ當代ハ宗正ノ官ナクシテ宗室ノ事ヲモ執政
ヨリ取サバク執政ハ日々萬機ノ政務ニ暇^{イヒ}ナケル事アリテ宗
室ヨリ告ルラ聽テ其事ヲ取サバクノミナリ常ハ宗室ヲ疎^{ツク}
テ何事ヲモ聞知ラヌ様ニアレバ宗室ノ守トナルコト無し然
若^{モシ}宗室同姓ノ諸侯ノ中ニテ長者ヲ一人擇テ宗正ノ職ヲ
命ゼラレ宗室ノ政令ヲ掌リ上ヨリ下ル命ヲ傳ルモ宗室ヨリ
上ニ申シタマフ事ヲ奏達スルモ悉^{ツトク}是ニ掌ラシメ朝参ノ日ハ殿
上ニテ其進退ヲ輔導^{ホダウ}シ常ニ時々ニ宗室ノ邸第^{テイダイ}ヲ訪問^{ツクワン}シ
テ其行儀ヲ省察^{セイサツ}シ若^{モシ}不法ノ事モ有ラハ潜^{ヒソカ}ニ教訓ヲ加ヘ

孝悌德行ノ人アラバ言上シテ、上ヨリ其人ヲ褒獎セサセタマフ
様ニアラバ宗室ノ為ニ大ナル益ニテ、
ハウレヤウ
ホムル

國家ノ藩屏磐石ノ固メナルベシ、若宗室ノ中ニ然ルベキ人ナク、譜
第昵近ノ諸侯ノ中ニテ、同姓ノ長者ヲ擇ビ、爵位ヲ尊クレテ、
モシ

宗正ノ職ニ居ラシメラルベシ、是長久ノ計ナリ、三ツニ太僕
人主ノ出行ニ車馬僕從路次ノ行列等ヲ掌ル人王ノ朝廷ヨリ
ハカリコト

外ニ出タマフホドナレバ、遠方ヘ旅行シタマフニモ、都ノ内ニテモ、
田獵等ニ出タマフモ、從者ノ政令、大小皆此官ノ掌ナリ、サレバ人主
デレテ

ノ出行シタマフ事ノ類ラバ、何事ヲモ平日ニ調置テ、不時ニ急ナル
事アル時、少モ手ツカヘ無キ様ニ心ガクル、是太僕ノ職分ナリ、古異國
イニシヘ

ニテハ諸侯ノ國ニモ此官ハ有シナリ、當代武家ニ此官ナキ故ニ、少
モ常ニ變リタル事アレバ、時ニ臨テ他ノ役人ニ命ジテ、此事ヲ主ト
ラシメラル、故ニ無テ心得又事ヲ俄ニ調レバ、先例ノ知レガタキ事モ

有リ急ニ辨ジガタキ事モ有テ、一旦ニ成就セズ、半年一年ノ日數
ヲ閱テ、其事ノ行ハル様ニナル、是歎カンキ事ナリ、官人ニ闕タル者

アレバ、政事ノ滯トナル、箇様ノ類ナリ、然レバ太僕ノ官ハ必アレキ
官ナリ、周ノ穆王ノ時、君罔トイフ人ヲ、太僕ノ官ニナシタマヒシ、其

勅命ノ詞ヲ記シテ、尚書ニ罔命ノ篇アリ、太僕ハ君ノ身ニ近ツ
キ車馬僕從數十萬人ノ首領ナル故ニ、殊ニ其人ヲ擇ブナリ、

人主出行ノ時ニ限ラズ、乘輿ニ扈從スル輩ハ平日モ太僕ニ
シヨウ
トモ

屬シテ其法令ヲ受ルナリ公家ノ官ニ大舍人頭ト子リノカミアリ日本ノ太僕ナリ
○凡天下ノ治メハ封建ニシテ治ムルト郡縣ニシテ治ムルトニツノ制アリ
封建ニアラザレバ郡縣郡縣ニアラザレバ封建異國吾國古ヨリノ軀此
ニ法ニ外ナラズ封建ニハ封建ノ治メ有リ郡縣ニハ郡縣ノ治メ有リ是ラ
サハ心得ヌレバ其上ノ治メハ異國モ吾國モ古モ今モ人情物理必モ易
ハルコト無ケレバ異國吾國ノ古ラ稽テ今ノ政ヲ行フニ行ハレザレト無レ
今君ハ人ノ首ノ如クナル者ナル故ニ元首トイフ首バカリニテ手足ナケレバ
人ノ身ノ用足ラズ首ハ静ナル物ニテ手足ハ動ク物ナリ君ト臣トハ
首ト手足トノ如クナル者ナリサレバ大國ヲ治ムルモ小國ヲ治ムルモ君ノ
身一ツニテ治ムルコト能ハヌ故ニ必百官ヲ立テツレクノ職ヲ分テ事

ヲ掌ラシム百官ヲ立ルコトハ必古ラ稽テ今ノ時且ニ合セテ闕典ナ
キ様ニスル是聖人ノ法ナリ前段ニ和漢ノ古ラ引テ立官ノ義ヲ論
スハ今ノ世ラ必古ノ如クニ治メ古ノ異國ノ官職ヲ當代ニ用ヒシト
イフニハ非ズ古ラ稽ヘズシテハ如何ナル大智ニテモ今日ノ事ニ便利
法ヲ立ルコトアタハヌハ必然ノ道理ナル故ニ遠キ古ラ引タルナリ末段
ニイヘル大理宗正太僕ハ漢ノ代ニテハ九卿ナリ周ノ代ニハ六卿ニテ
アリシラ漢ノ代ニハ三公ノ下ニ九卿ヲ置タリ九卿ノ中ニ大司馬理官
ト刑官トヲ兼タル職ナリ理官ト刑官トハ本ハ一官ナレドモ國家
ノ多事ナルニ及テハ二官ニ分ルコト便利ナリ周禮ニハ秋官司寇
ノ屬官ニ種々ノ官アリ一官トイヒナガラ別官ナリ當代ハ此役

ナキニモアラ子トモ職掌混雜スル故ニ政ニ不便利ナリ宗正太僕
ノ二官ハ漢ノ九卿ノ中ノ官ニテ今ノ世ニ全ク無キ官ナル故ニ
是ラ闕典トイフナリ

○當代武家ニ大中納言、忝議、中少將、侍從ノ官ヲ命セラル、
ハ眞ノ官ニハ非ズ、是ハ公家ノ官ヲ借テ、武家ノ爵位トシテ名者ナ
リ、又山城守、大和守ナド、稱シ或ハ中務、大輔、掃部頭ナド、稱
スルハ爵位ニモ非ズ、只公家ノ官名ヲ借テ、五位以上ノ爵アル人
呼名ニシタル者ナリ、世俗是ヲ官トオモヘルハ誤ナリ、侍從以上ハ
皇朝ヨリ任官ノ宣旨下ル、其餘ハ四位、五位、叙爵ノ口宣ガリ
ナリ、既ニ五位ニ叙セラレバ、呼名ハ何國守上、何大輔トモ、何頭

トモ心ニ任セテ稱スルナリ

○當代諸侯ノ國國ゴトニ制度各異ニシテ、一様ナラサレドモ皆官職ヲ
立テガルコトハ、一同ナリ、天子ハ天下ヲ治メ、諸侯ハ一國ヲ治ム、政ニ大
小アルノミニテ、其道ハ異ナルコト無シ、然レバ百官ヲ建ルコトモ、天子
ノ如クニシテ、其負ヲ少クシ、其事ヲ省クノミナリ、今ノ世ハ諸侯
ノ國モ同役ヲ數多建、置テ、萬事ヲ月番ニテ主トルハ、世ノ風
俗ナリ、政事ノ害是ニ過タルコト無シ、必一官一人ニ定テ、其職
掌ヲ別チソレノ政事ヲ一人ニ委任シテ、傍ヨリ指イロハ、又様ニ
スベシ、長官、次官ノ意ヲ以テ、本役一人ニ副役トイフ者ヲ、ハ役ノ
大小、輕重ニ隨テ、二人モ、三人モ、附置キ、又其下ニ判官、主典ノ意ヲ

以テ下^{シタ}後^ラ数^ア多^タ附^テ本^レ役^ヲ佐^ケシムベシ一人ニテ二官三官ヲ無ル
コトハ大夫ノ家ノ事ニテ諸侯ニ有ルニジキ古ノ道ナレドモ小諸侯大
國ノ大夫ノ如ク禄モ薄ク人モ少^クケレバ役ノステト其人ノ材トヲ考テ
兼^ズ帶^シテ便^ズナル事^ラバ一人ニ二役^ヲ任^ズルモ可^ナリ又諸侯ハ大小
ト無ク東都ニ朝覲^シテ一歳或ハ半歳逗留スルコト有ルヨリテ
國ト江戸トニ役人ヲ置カザレバ叶ハズサレバトテ同役^ヲ二人ニナシテ
八國ト江戸ト政^ヲ異ニスル弊^{ツイハ}アリテ害^ヲ生^ズルナリ國ハ本ナレバ江
戸ハ旅館ニテ末ナレバ本役ハ常ニ國ニ居^リ副^役ノ者カハルゾ
江戸ニ在^リ番^シテ小事^ヲバ在^リ番ノ副^役決^断シ大事^ヲバ國ノ
本^レ役ニ告^テ決^断ヲ受^クベシ是古ノ道ニテ今ノ世ニハ侯國ノ

治メ是ヨリ便ナルコト有ルベカラズ近來諸侯ノ政ヲ觀ルニ必^ク國ト
江戸ト兩派ノ諸役人アル故ニ萬事兩端ニナリテ一決ナク同役ノ
中ニテモ異見サマハニテ和合セズ群^カ下ノ為ニ不便ナル事多ク異
竟其君ノ為^タ國ノ為ニ害^ヲナスコト甚多シ皆流俗ノ習ハレニ流^ル
テ官職ノ道ヲ知ラザル故ナリ

經濟錄卷第四

信陽 太宰純 撰

天文

史記ニ天官書アリ、漢書ニ天文志アリ、皆天文ノ事ヲ具セリ、
 天文トハ、文ハ、明文章ノ義ナリ、日月星辰ハ、天ノ文章ニテ、明ナル物
 ナル故ニ是ヲ天文トイフ、帝堯ノ時、羲氏和氏ノ兩家、天文ヲ主トシ、
 仲羲叔和仲和叔、此四人ヲ四方ノ遠地ニ居ラシメテ、四方ノ天象
 ラ考シメラル、帝堯天下ヲ治メタニヒシ、最初ニ此事ヲ勅命アリシナ
 リ、帝舜ノ世ニ至テ、璿璣玉衡ヲ造テ、天文ノ日月五星列宿
 ノ運行ヲ推歩セシム、璿璣玉衡ハ、今ノ世ノ渾天儀ノ如クナル

三十一

物ナリ天文ヲ測ル器ナリ推歩トハ天ノ運行ヲ測ルコトナリ天文
 ハ曆ヲ造ル本ナリ人ハ天地ノ間ノ靈物ニテ人ノ道ハ天ニ本ヅキ
 タル者ナリ上天子ヨリ下庶人ニ至ルニ平日ノシワザ悉天道
 ニ順テナスベキ故ニ堯舜ノ聖人天下ヲ治メタマフニ天ニ背ル
 ニ重ンジタマヘリ人行ヒ天道ニ合ハバ祥瑞現シ天ニ背ケバ
 災殃降ル賤キ者ニテモ分ニ隨テ其驗アリ況ヤ天子諸侯
 ノ身ハ天下國家ニ係ル事ナレバ善惡ノ行ヒ必天ニキレテ
 吉凶ノ應アラズトイフコトナシ三代ヨリ以下何レノ世ニモ天官
 シ重ンジテ太史ノ官コレヲ掌ル後世ハ此官ヲ欽天監トモ
 名ヅケタリ朝廷ノ側ニ司天臺トイフ高キ臺ヲ作テ太史欽

天ノ官人日夜此臺ニ登テ天文ヲ觀ル若天變及見ユルコト有レ
 バ君ニ奏聞シテ慎テ徳ヲ修メタマフベキ由ヲ言上ス古ノ人
 主ハ天ヲ畏レタマフコト甚シキ故ニ漢ノ天子ナトハ日食ヲサヘ
 畏レタミヒテ天下ニ詔ヲ下シテ賢良方正直言極諫ノ士ヲ求メ
 マヘリ増テ其餘ノ大小ノ天變ニハ甚シク恐懼シタマヘリ其故
 如何ニトイフニ天ハ活物ナリ二六時中運動ス此物ナリ活物ノ暫
 モ運動セズシテアラレヌコト人間ハイフニ及バズ鳥獸魚鼈一モ
 同然ナリ然レドモ天ハ萬物ノ父母ニテ其位至テ尊ク其徳
 至テ正シキ故ニ鳥獸魚鼈ノ運動ノ如クニ隨意ニ運動スル
 ニテハナク日夜ニ常度アリテ毎日過不及ナク運動シテ三

百六十五日ヲ歴テ故ノ處ニ復ル是天道ノ正直ナル處ナリサレ
バ人ノ智術ヲ以テ推測レバ日月星辰ノ運行皆知ラル、ナリ明年
ノ日食ヲ今年ヨリ知ル様ナルコト是推測ノカトハイヒナガラ天道
ノ正直ナル故ナリ然レドモ本来活物ナルハ常度アル内ニ少ヅノ過不
及ナキニ非ズ又時トシテハ大ナル過不及モ有リ是ニ因テ古ノ聖人天
ス人智ニテ測知ルベキ物トシタマハズ日食ヲモ天變トナシテ
春秋ニ書シタマヘリ又古ノ天官ハ後世ノ如クニ筭數ヲ用テ推坂ス
ルコトヲバ尚トセズ日夜ニ天文ヲ觀テ其常ト變トシテ的知スルコトヲ
貴ベリ是却テ天文ニ精シカリシ故ナリ後世ニ及テ人ノ智巧盛ニ
ナリテ推歩ノ術精キガ益精シクナリテ十年ノ後ヲモ前ニ考知

ル様ニナリテ其推歩スルトコロ差ナキヲ恃テ古ノ如クニ目ニテ見テ
知ルコトヲ務メズ今日推歩ノ差ハガルニ誇テ古ノ天官ノ道粗略
ナリトイフ淺シキ心ナリ凡古ノ人ノ萬事ニ精巧ナルコト後人ノ
及ブ所ニアラザルハ天官ノミニ限ラズ古人ハ此道ヲ創タル人ナリ若
古人ノ智巧ヲ用テ其術ヲ精シクセバ何ゾ後世ノ如ク日食筭
ヲ前知スルコトアタハザランヤ然ルラ是ヲ筭數ニテ前知セントセズシ
テ只其時ニ臨テ目ニテ見テ知ル様ニアリシハ畢竟天ハ活物ナレバ
時ニ當リテ差ナキコト能ハズ且天意ハ測リガタケレバ巧ヲ用テコレ
ヲ測ラントセズ立テ災變トナシテ戒懼ヲ人主ニ示シタマヘル古聖
人ノ深キ智慮ナリ此義ハ聖人ノ道ヲ知タル者トラテハ會得

セヌコトナリ、凡^{オコ}古ノ聖人ハ天ヲ畏レタマフコト殊ニ甚シク、世ノ婦人
女子ノ鬼神ナドヲ畏ル、如ク、後世ヨリ觀レバ愚ナル様ニ思ハル、
事アリ、孔子ノ言ニ君子有三畏トタマヒテ、畏天命トイフヲ第一
ニノタマヘリ、又王孫賈ニ答テ、獲罪於天無所禱也トモノタマヘリ、宋
儒ノ理學ノ說作リテヨリ、二程朱晦菴ガ徒天ハ即理也ト說テ、理
ヲ以テ天ヲ推サントス、凡^{オコ}理ハ死物ノ上ニ在ル者ニテ、智者ノ明ナル心
ニテ推セバ、一ヨリ十ニテモ見トラサル、物ナリ、譬ヘバ圍碁ノ上手ノ
一局ノ碁ヲ圍ムニ、敵ト我トノ始終ノ道ヲ見トフ、スガ如シ、碁ニハ
勝ツ理ト負ル理ト、二ツヨリ外ニ理ナキ故ナリ、天命ハ左様ニ見ト
ラサル、物ニ非ズ、譬言ヘバ雙六ノ碁子ヲ投レガ如シ、雙六ニモ上手

ト下手ト有レドモ、碁子ノ采ハ一ヨリ六ニテ、内ニテ何レノ采ガ出
ントイフコトヲ知レコト能ハズ、宋儒ノ天ヲ理ニテ推ストイフハ、碁子ノ
采ヲ何ノ次ニ何ト定置ク様ナル事ナリ、左様ノ道理何トシテ有
ルベキヤ、宋儒ノ說ノ如ク、天ヲ理ト見レバ、天命ハ畏ルニ足ラヌ者ト
ナルナリ、近代ハ天官ヲ談ズル者モ皆理學ヲ傳會シテ、廣大無邊
ノ天ヲ方寸ノ掌ニ置タル様ニイヒナス、是五星列宿ヲ見識リタルノ
ミニテ、天ヲ知タル者ニハ非ズ、星經ニ記セル所モ、史記ノ天官書、漢書
ノ天文志、其外歷代ノ天文志ニ載タル所モ、運行ノ度数ヲ明セル
ノミナラス、天變災異ノ說ヲ多ク記セリ、是スナハ千古聖人ノ天ヲ
敬ヒ畏レタマヘル遺教ナリ、吾國ニテ公家ノ世ニハ、天文博士ヲ置テ

天官ヲ掌ラシメラレシニ武家ノ世ニ此官ヲ設ケズ當代モ國初以
來其沙汰ナカリシニ

憲廟ノ時安井算哲ヲ^{エキシ}弈師ヨリ擢テ天官ニ備ヘタヒテヨリ
國家ニ此道ノ博士出來レリ誠ニ一代ノ盛舉ナリ

律曆

律ハ十二律ナリ此方ニテハ十二調子トイフ黃帝ノ時伶倫トイ
フ人嶰谷ノ竹ヲ截テ十二律ヲ造リシヨリ律トイフコト始マシ
リ黃鐘太簇姑洗蕤賓夷則無射ヲ陽トス大呂夾鐘仲
呂林鐘南呂應鐘ヲ陰トス陽律六ツ陰律六ツ合セテ十
二ナリ伶倫竹ヲ截テ管トナシ是ヲ吹テ音律ヲ定メ五音

ヲ分ツ五音ハ宮商角徵羽ナリ五音十二律ヲ以テ天地ノ氣ヲ
和ゲ八風ヲ調ヘ萬物ヲ生育ス八風ハ八方ノ風ナリ聖人樂ヲ
作テ天地ノ氣ヲ調ヘ人心ヲ和ゲタラ其本ハ十二律ナリ軍
中ニテモ律ヲ吹テ兵氣ヲ候フ事ナリ六韜ニ見エタリ迂遠
ナル様ナル事ナレドモ左ニハアラス音律ノ道ハ極テ微妙ナル者ナ
リ日本ニテ十二調子トイフハ壹越斷金平調勝絶下無雙調
鳧鐘黃鐘鸞鏡盤涉神仙上無ナリ壹越ハ黃鐘ナリ斷金ハ大
呂ナリ平調ハ太簇ナリ勝絶ハ夾鐘ナリ下無ハ姑洗ナリ雙調
ハ仲呂ナリ鳧鐘ハ蕤賓ナリ黃鐘ハ林鐘ナリ鸞鏡ハ夷則ナリ
盤涉ハ南呂ナリ神仙ハ無射ナリ上無ハ應鐘ナリ五音ハ宮ヲ

君トシ商ラ臣トシ角ヲ民トシ徵ヲ事トシ羽ヲ物トシ萬物ノ聲種
種各別ナレドモ五音十二律ノ外ニ出ルコト無シ十二律ハ黄鐘ヨリ起
ル是十一月ノ律ナリ黄鐘ノ管ハ内ノ圍九分長廿九寸ナリ是ヨリ
大呂太簇夾鐘ト次第ニ少ヅ短クナリテ應鐘ニ至テ四寸有奇ナ
リ天下ノ物ノ制度皆黄鐘ノ律ヨリ出ツ黄鐘ハ萬事ノ本ナリ
○度ハ黄鐘ノ律ヨリ起ル度トハ丈尺ナリ今ノ俗ニイフモノサレナリ
黄鐘ノ管長廿九寸此一吋トイフ九分ナリサレバ黄鐘ノ九寸トイ
フハ實ハ九九八寸一分ナリ十寸ヲ尺トシ十尺ヲ丈トシ十丈ヲ引
トス分寸尺丈引是ヲ五度トイフ

○量ハ黄鐘ノ律ヨリ起ル量トハ斗斛ナリ此方ニイフスナリ黄鐘
ノ管ノ内へ秬黍ヲ入レバ千二百粒入ル是ヲ龠トイフ龠ヲ二
合セタルヲ合トス十合ヲ升トシ十升ヲ斗トシ十斗ヲ斛トス龠合
升斗斛是ヲ五量トイフ斛ハスナハチ石ナリ
○衡ハ黄鐘ノ律ヨリ起ル衡ハ斤兩ナリ衡ハ秤ノサホナリ
秤ハ權トイフ秤ノオモリナリ權衡トイフモ秤ナリ黄鐘ノ管ノ内ニ
容タル秬黍千二百粒ノ重サヲ十二銖トス是ヲ倍シテ二十四
銖ヲ兩トシ十六兩ヲ斤トシ三十斤ヲ鈞トシ四鈞ヲ石トス銖
兩斤鈞石是ヲ五權トイフ一兩ハ後世ノ十錢ノ重サナリ一
鈞ハ四百八十兩ナリ一石ハ千九百二十兩ナリ一銖ハ三分三釐
三毫有奇ナリ以上度量衡ノ法皆古制ナリ後世ハ幾度モ増

損アリテ古法ノ如クニアラズ日本ノ度量衡ハ又日本ニテ古來
増損アル故ニ長短大小輕重異國ト同カラズ此類ハ一代ノ制
作ニ係ル事ナレバ強ニ古法ヲ用ヒズ

○律度量衡ノ四ツハ天下ノ制度ヲ定ムル本ナル故ニ古ノ聖人
コレヲ重シタマヘリ尚書ノ舜典ニ同律度量衡トアル帝舜ノ
天下ヲ巡狩シタマフ時四方ノ國ニテ其處ノ律度量衡ヲ召集メ
テ法制ニ合ヘルカ違ヘルカラ點檢シタマヘルナリ此四ツハ法度ノ
器ナレバ是ニ違アリテハ天下ノ制度亂ル故ニ是ヲ天下一同ナル
様ニ正シタマヘリ中庸土車同軌トイヘルモ天下ノ制度一同ナルコ
トイヘリ

○異國ニテ古ハ樂師ニ瞽者ヲ用テ音律ヲ正サシ目ナキ者ハ
必音律ニ精シキ故ナリ吾國ニテハ瞽者ヲ用ヒ音律ノ道ヲバ
伶人ノ家ニテミ傳ヘテ他人ハコレヲ知ラズサレドモ人家ノ世ニ雅樂
世ニ行ハレシ故ニ常ノ人モコレヲ學テ平日ノ樂ミトセリ武家
世ヨリ以來ハ猿樂田樂等ノ俗樂作リテ雅樂廢レシ故ニ音
律ノ道ヲ知ル者世ニ稀ナリ増テ今ノ世ニハ又種々ノ俗樂多ク
ナリ又レバ雅樂ハ彌廢レタリ此時ニ於テ音律ノ道ヲ説ク甚
迂遠ナル事ナリ古ノ道ヲ以テ論ズレバ是政事ノ本ニシテ肝
要ナル事ナレドモ今日ノ急務ニアラザレバ姑コレヲ略スルモ害ナシ
然レドモ律ハ萬事ノ本ナリトイフコトヲバ知ラズバアルベカラズ

○日本ノ度ハ唐ヨリ受傳ヘタリトイフ昔ノ尺ハ今姑略シテ論ゼ
ズ當代用ル所ノ尺四種アリ一ツハ木匠ノ曲尺是唐ノ世ノ尺ナリ
トイフ鍊鐵ニテ作ル故ニコレヲカチガシトイフ二ツハ縮尺木匠ノ曲尺ニ
テ一尺二寸五分ヲ一尺トス婦人衣服ヲ裁ツニ是ヲ用フ海縮尺
ニテ作ル故ニクジラガシトイフ三ツハ兵服尺曲尺ニテ一尺二寸ヲ一尺
トス布帛ヲ賣ル者是ヲ用フ四ツハ襪子尺曲尺ニテ八寸ヲ一尺ト
ス和襪ヲ作ル者是ヲ用フ此四種ノ尺ハ天下一同ニシテ公私皆コレ
ヲ用フ上ヨリ嚴令ヲ下シタマハガレドモ姦猾ノ民モ下ニテ私ノ度
ヲ作ルコトモ無シ然レドモ布帛ヲ鬻ク者或ハ兵服尺ヲ用ヒ或
ハ縮尺ヲ用ヒ或ハ曲尺ヲ用ルコトモ鬻ク所ノ物ニヨリテ尺示

同アリ是ニキラハンキ事ナル故ニ布帛ヲ買フ者若コレヲ辨知セザ
バ誤テ心得ル事アリ姦商或ハ是ヲ以テ人ヲ欺ク是スナハチ尺
ニ種々ノ尺アル故ナリ願クハ種々ノ尺ヲ止テ萬事ニ曲尺一ツヲ
用ル様ニアリタキ者ナリ

○日本ノ量古代ハ如何ナル制ニテ斗斛ノ大小幾許ナリシトイ
フコト詳ナラス近世ニテハ曲尺ニテ方五寸深サ二寸五分ヲ升トシ
テ當代改テ方四寸九分深サ二寸七分トナセリ方ニテ一分ヲ損ジ
深サニテ二分ヲ増タルニヨリテ内實舊量ヨリモ多シ舊量ハ一升ノ
内實六十二寸五ナリシ今ノ新量ハ六十四寸八二ナリ是新量ハ
舊量ヨリ大ナリ此新量ヲ今升ト稱シテ行フニヨリテ舊量ヲハ

古^コ什^シト稱^シテ用^ヒズ、國家既ニ新量ヲ制セラレテヨリ、都下ニ官
局^{キョウ}ヲ立テ、大小ノ量器ヲ作ラシム、其制鐵ヲ以テ外ヲ固メ、口ニ斜^{カタ}
ニ鐵^{テツ}弦^{ケン}ヲ施シテ、姦猾ノ者ノ輒^{タズ}ク削^{サク}小^コスルコトヲ防ギ、底^{ソコ}ニ烙^{ヤキ}印^{イン}
ヲ打^ウシテ、制度ヲ明ニス、世俗コレヲツルカケマス、トイフ、此法量ヲ天
下ニ行ヒテヨリ、民間ニテ私ニ量器ヲ作ルコトヲ禁ズ、是誠ニ律度
量衡ヲ同クストイヘルニ合ヘル政ナリ、然レドモ如何ナル故ニヤ、民間ニ
テ私量ヲ作り用ルコト、今ニ至ルニテ止マズ、禁止ノ令下レバ、輒^{タズ}
止^マテ、程ナク又起ル、私量ヲ作ルトナレバ、厚^{コト}キ枝ヲ用ル故ニ、外面^{ソトツラ}
ハ縱^{タビ}定制ノ如クノ大サニテモ、内實^{ウチ}少シ、況ヤ外方深サ俱ニ法量
ヨリ小キヨヤ、姦猾ノ民是ヲ以テ人ヲ欺キ利ヲ求ム、長恐不

禁令ノイニダ嚴ナラザル故ナルビシ、又甲州ニ武田氏ノ制、一升
五合ヲ一升トスル量アリ、江州ニ佐々木氏ノ制、一升トテ八合ヲ一升ト
スル量アリ、コレヲ武者升トイフ、武者ハ地ノ名ナリ、江州ノ内ハ今モ
此量ヲ用ス、豫州^{ウツシマ}勢州^{セウ}ニ六合ヲ一升トスル量アリ、封建ノ世ハ皆
侯國別ニ制度ヲ立テ、其風俗ニ從テ治ムルハ固ヨリノ事ナレドモ、
度量衡ノ三ツハ天下運用スル法度ノ器ニテ、一統ノ制ヲ守ルベキ
義ナル故ニ、唐虞ノ世ノ政ニ同律度量衡トイヘリ、孔子ノ言ニ、謹^{コトバ}
權量審^ミ法度トノタマヘルスナハテ、此義ナリ、度量衡ニ異同アル
バ、姦猾ノ民是ニ因テ詐ヲ行ヒ、人ヲ欺ク事アリテ、政ノ害トナレ
故ニ古ノ聖人は是ヲ謹タマヘリ、謹ムトハ嚴密ニスルコトナリ、然レバ

諸侯ノ國モ一同ニ官局ヨリ出ル法量ヲ用フベキ者ナリ官局トハ國家ノ制度ヲ奉テ器財等ヲ作出ス所ヲ局トイフ今ノ世座トイフ是ナリ

○日本ノ古ノ秤ハ如何ナル制ナリシトイフコト詳ナラズ當代ハ京都ト東都ト兩處ニ官局ヲ建テ京都ハ神氏東都ハ守隨氏ニ命ジテ大小ノ秤ヲ作ラシメラル東國ハ守隨ガ秤ヲ用ヒ西國ハ神氏ノ秤ヲ用フ民間ニテ私ニ秤ヲ作ルコトヲ許サズ秤ヲ作ルコトヲ得ガルノミナラズ秤ノ少ニテモ損ジタル私ニ修補スルコトヲ許サズ又神氏ノ秤ヲ東國ニテ用ヒ守隨氏ノ秤ヲ西國ニテ用ルコトノモ許サズ若此法ヲ犯ス者アレバ兩局ノ徒見ツクルニ隨其秤

ヲ奪取テ衡ヲ折テ棄ル是國家ノ法令ニテ制禁甚嚴ナリ度量衡ノ三ツノ中ニテ只此法ノミ至テ嚴密ナリ秤ハ微細ナル物ニテ姦ヲナシマスキ故ナルベシ誠ニ謹權量トシタル孔子ノ聖謨ニ合ヒテ目出タキ法令ナリ然ルニ異國ニテ八十錢ノ重サヲ一兩トシテ六兩ヲ一斤トス一斤ハ百六十錢ナリ斤ヨリ以上ハ幾斤ト數へ斤ノ下ハ幾兩幾錢幾分ト數フルコト金銀藥物絲綿鹽肉何ニテモ輕重ヲ以テ數フル物ハ皆此數ヲ用フ日本ニテハ物ニ隨テ斤兩同カラズ黃金ハ四錢八分ヲ一兩トシ銀子ハ四錢三分ヲ一兩トシ餘ノ諸幣ハ大抵四錢ヲ一兩トス或ハ五錢ヲ一兩トスル物モ有リ斤ニ至テハ百六十錢ヲ一斤トスル通法ニテ二百錢ヲ一斤トスル物モ有リ二百三

十錢或ハ二百五十錢或ハ三百錢ヲ一斤トスル物モ有リ尋常ノ粗大ノ物ハ斤ヲ以テ數ヘズ尺十々百々ト數ヘテ千々ニ至バ一貫々ト數ヘテ其上ハ百千萬貫々トイフ貫ハスナハチ錢一々文ナリ々ハスナハチ錢ノ字ナリカクノ如ク幾々ト數ヘテ上ルハ一ギノハシキ事ナシ斤兩ニテ數フル物ハ上ノ如ク斤兩ニ不同アル故ニ常ノ人惑ヒマスキ姦猾ノ民欺詐ヲナシマスニ異國ノ如クニ斤兩ヲバ一同ニ定ラレンコト政事ノ便利ナルベシ 已上律ヲ論ズ

○曆ハ民ニ時日ヲ授テ稼穡ノ時節ヲ失ハガアジメシメニ為ニ設タル者ナリ堯典ニ期三百有六旬有六日以閏月定四時成歲トアルハ帝堯ノ義和ニ命ジタマヘル言ナリ是ヨリ以後歷代コト重ズ

日本ノ曆ハ皆中華ノ曆ナリ此方ノ百官ニ曆博士アリ漢書ヲ作ル上古ヨリ中華ノ代々ノ曆ヲ用タリシニ清和天皇ノ貞觀三年ヨリ唐ノ長慶宣明曆ヲ用テ當代ノ天和年中ニテ八百餘年コレヲ行ヘリ其間異國ニテハ數度改メシニ此方ニテハ推歩粗略故ニ曆ノ差ヲ知ラス因循シテ八百年ヲ經タリ天和二年日食大ニ差ヘルニ因テ

憲廟鈞命ヲ下シタマヒテ曆ヲ改シム^{エキレ} 齊師安井^{コウヂ}算哲^{ゼン}元ノ郭守敬ガ授時曆ノ法ニ依テ新曆ヲ作テ獻ズ號ラト貞享曆ト賜^{タカ}リ貞享元年ヨリコレヲ行フ授時曆ハ法ノ精微ナルコト古曆ニ度越^トセリ今ノ貞享曆モ日本ニテ上古ヨリ未カクノ如クノ曆ハ有ラズ

憲廟ノ明德、算哲ガ功、誠ニ不朽トイフベシ。然レバ當代曆法ニ於テハ遺憾ナシ、不佞又何ラカ議センヤ。但シ今ノ見行ノ曆本ヲ觀ルニ、俗習ニ牽レテ、謂レナキ事ドモラ書ツケタル處アリ。茲ニ一二ヲ舉テ其非ヲ示ス。

○二月ノ中ヲ春分トイヒ、八月ノ中ヲ秋分トイフ。春秋分ヨリ第三日ヲ世俗ニ入彼岸トイフ。此日ヨリ一七日ノ内ヲ彼岸ト名ツケテ、佛法ヲ信ズル愚俗婦女ノ輩、寺院ニ詣テ焼香ス。農人ハ是ヲ以テ種樹收穫ノ候トス。此彼岸トイフ事、佛經ノ中ニテハ只煩惱ノ苦ヲ離レテ涅槃寂滅ノ樂地ニ到ルヲ人ノ海ヲ渡リテ向ノ岸ニ着クニ喩ヘテ、彼岸ニ到ルトイフヲ到彼岸トイヘルノミナリ。仲春ト仲

秋トノ月ノ中ニテ、一七日ヲ彼岸ト名ツケテ、佛事ヲ行ストイフ。佛トハ佛法ニ無キ事ナリト聞ユ。是只僧家ニテ利ヲ貪ル輩、是ニ託シテ愚民ヲ寺院ニ集テ施物ヲ取シ、爲ニ設名事ナルベシ。縱佛法ニ有ル事ナリトモ、曆法ニ關ラヌ事ハ書記スベシキ者ナリ。況ヤ箇様ノ無稽ノ事ヲ曆本ニ載スベキ義ナシ。是必刪去ルヘキ事ナリ。曆本ニ載セストモ、其日ニ用アラバ、春秋分ヨリ第三日ヲ初日ト知ツルハ佛者ノ方ニ欠ル事モ有ルベシ。農業ハ二十四氣七十二候ヲ以テ、其時節ヲ知ルコトナレバ、是亦彼岸ヲ恃ムコトモ有ルベシキナリ。

○鬼宿日ハ、鬼宿値日ナリ。値ハ當ルトイフ義ニテ、當番トイフ意ナリ。二十八宿ヲ日ニ配スルコト、佛家ノ宿曜經ノ說ニテ、曆家ニ無

事ナリ、二十八宿ノ中ニテ、鬼宿ハ吉事ヲ主ドル星ナリトテ、此星ノ値ル日ヲ吉日トスルナリ、鬼宿ノ値ル日ヲ好テ用フベキナラバ、奎宿ハ凶事ヲ主ドルトイヘバ、奎宿ノ値ル日ヲバ除クベキナリ、凡^{オウ}二十八宿ノ値日トイフ事、謂^{イハ}レ無キ事ナリ、日ノ名ハ本甲乙等ノ十幹ヲ以テ定タル、後ニ及テ子丑等ノ十二支ヲ配シテ、甲子乙丑等ノ六十ノ名ヲ立タリ、月ヲバ十二支ヲ以テ名トス、是古来ノ大法ナリ、此外ニ七曜二十八宿等ヲ日ニ配シテ、值月值日トイフ事アル、皆佛家ノ説ニテ、曆法ニ聊^{アツ}モ關ラヌ事ナリ、此等ヲモ刪去ルベキナリ、
○七十二候ハ十二箇月ニ各節ト中ト有テ、一歲二十四氣ナルニ一氣ニ各三候アリ、一氣十五日ナル故ニ、一候ハ五日ナリ、候ハカハフ

トイフ訓ニテ、一歲ノ内、風雨霜露ノ變、鳥獸草木ノ化ヲ、觀テ寒暑ノ往來、陰陽ノ氣ノ過不及ヲ候フニ、是ラ證^シ驗トスルナリ、陰陽寒暑ノ氣ノ變遷スルコト、大約五日ホドニテ、易ニ、五日一候ト定タル者ナリ、タトヘバ、桃始華トイフ候ニ、花イタ開カサレバ、春寒キヲ知リ、花サク候ヨリ前ニ、花サケバ、春ノ暖ナルヲ知ル類ナリ、此七十二候ハ二十四氣ニ附^ツク事ナレバ、曆本ニ二十四氣ヲ書ツケタレバ、是ニテ推テ、七十二候ヲバ知ルコトナリ、今ノ曆本ニ、餘ノ候ヲバ載セズ、半夏生ノ一候ヲ載ス、半夏生ハ夏至ノ第二候ナリ、夏至ヨリ第十一日ヲ半夏生トス、藥草ノ半夏、此時ヨリ生ズルトナリ、今ノ俗説ニ、此日ヲ過テ、筍ヲ食ハズトイフニ、因テ、曆本ニ是ヲ載タリ、又此日

ニ天ヨリ悪露降ル又此日ヲ過テ生ジタル笋ハ蟲ヲ生ジテ竹
ニ成ラズトイフ様ナル俗説アリ凡七十二候ヲ書ツクハ皆書ツクベ
シ半夏生ハカリラ書ツクル是亦謂レ無キ事ナリ

○二十四氣ハ曆ノ本ナリ曆ヲ作ルニ當年ノ冬至ヨリ始テ來
年ノ大雪マデニ至テ止ル先ニ二十四氣ヲ定テ次ニ十二箇月ノ
朔ヲ定メ次ニ減日没日四季ノ土用等ヲ定メ後ニ日食月食
ヲ推測ス是ニ二十四氣ハ曆ノ體ナリ二十四氣ニ各其名アリ
昔ノ曆ニハ其名ヲ書シタリシニ近來ハ八節ト小ハ六寒ニ各名
ヲ書シテ餘ハ只正月中二月節ナド書シテ其名ヲ書セズ是
法ニ背ケル事ナリ八節ハ立春春分立夏夏至立秋秋分立冬

冬至ナリ此八節ニ名ヲ書スルホドニテ餘ノ氣ニ名ヲ書セザルハ粗略
ナリ十二月ノ節ヲ小寒トイヒ十二月ノ中ヲ大寒トイフ又ソノ如
ク六月ノ節ヲ小暑トイヒ六月ノ中ヲ大暑トイフ小寒大寒ニ
名ヲ書シテ小暑大暑ニ名ヲ書セザルモ如何ナル義ゾマ是曆ヲ
作ル者ノ俗ニ牽ル故ノ失ナリ願クハ今ヨリ改テ二十四氣ニ皆
其名ヲ書スル様ニアリタキ者ナリ

○減日没日ハ世間ニ所用ナキ事ナレドモ曆法ニ所用アリ是モ
昔ノ曆ニ載タルヲ近來略セリ今ヨリ改テ又是ヲ載スベキナリ
曆ハ俗ノ為バカリニ作ル物ニアラザレバナリ

○立春ヨリ七十五日ヲ花盛トシ八十八夜ヲ春寒ノ終ニテ霜ノ

降ルトイヒ二百十日ヲ風ノ吹クトイフ皆和俗ノイヒ習ハセル事ニ
テ異國ノ書ニ本據ナキ事ナレドモ農民ノタメ又ハ世人ノ其時節
ヲ知テツレハノ心ガケラスル為ニモナレバ是ヲ曆ニ載タル苦シカルマジキカ
○建除納音ヲ毎日ノ下ニ書シ其外大明日福日吉日五墓日
天赦日滅門日天火地火大火往亡血忌并ニ種々ノ宜禁ヲ
書スル陰陽家五行家ノ説ニテ曆法ニ以テモ關シラヌ事ナレバ此
等ヲバ載セズトモアリタキ者ナリ然レドモ周易ニ聖人以神道設
教而天下服矣ト説テ時日ヲ擇ブ類ノ事ハ聖人捨タリ
ナレバ愚民ノ為ニ是ヲ存スルモ可ナリ畢竟民ノ為ニ設タル事ニテ
道ヲ知レル君子ハ拘ハラヌ事ナリ此義ハ世ノ理學儒者ノ知ル

所ニ非ズ凡天下ノ民ヲ悉ク君子ニナシテ見ントスルハ宋儒ノ道ナリ
聖人ノ道ニハ非ズ納音トハ日ノ下ニ五行ヲ配スルヲイフ
○曆ノ初ニ歲徳太歳大將軍金神等ノ位ヲ書シ六方所ノ宜
禁ヲ知ラシムルナリ是モ曆法ニ以テモ關シラヌ事ナレドモ方所ヲ擇
ブモ時日ヲ擇ブト同然ニテ愚民ノ為ニ設タル道ナレバ存スルモ害
ナシ宜禁トハ何ニヨシ何ニアシトイフ事ナリ
○甲申ノ日ヨリ癸巳ノ日ニテ十日ヲ十方昏トイフ俗説甚謂レ
無キ事ナリ是ヲ除クベシ
○八專ハ壬子ヨリ癸亥ニテ十二日ノ内十干ノ五行ト十二支ノ五行
ト同キ日八日アルハ八專トイフ丑辰未戌此四日ハ干支ノ五行同

カラサル故ニ是ヲ間日トス俗説ニ八專ノ日ハ天氣悪シトイフ尤
謂レ無キ事ニテ其驗モ見エズ人事ニ所用ナシ曆法ニ關カラズ事ニ
テ陰陽五行占候ノ書ニモ本據ナキ事ナレバ是亦尋ニ書セズトモ
アルベシ 已上曆ヲ論ズ

地理

地理トハ理ハスデメナリ木ノモクメヲ理トイフ理ハ條理ナリ地ニハ
山川溪谷等ノソレ々ノ條理アル故ニ地理トイフ異國ニテ六尚書
ニ禹貢ノ篇アリテ天下ノ土地山川ノ事ヲ具ニ記シ是地理ノ始
ナリ又古書ニ山海經アリ周ノ世ニ大司空ノ官天下ノ土地ヲ主
ドリ職方氏ノ官天下ノ土地ニツキ名政令貢職ノ事ヲ掌ル貢ハ

ミツキモノナリ職ハ天子ヘノ務方ナリ三代ノ後ニ及テハ史記ニ河
渠書アリ漢書ニ地理志溝洫志アリ後漢書ニ郡國志アリ是皆
地理ノ書ナリ漢ヨリ以後ハ歷代ニ必地理志アリ中華ニテ六代ノ改
ムルゴトニ地理易ハ故ナリ歷代ノ地理志ノ外ニ地理ノ事ヲ記スル
書古來甚多シ天下ノ全軀ヲ記セルモ有リ州郡ヲ別ニ一州一郡
ヅク詳ニ記シタルモ有リ凡地理ノ書幾百部トイフ數ヲ知ラズ土地
ノ圖モ様々ニテ大小詳略數多アリ地理ヲ知ルハ一ノヲ治ムル本
ナリ然レドモ大禹ノ如ク一人ノ身ニテ天下ヲ徧歴シテ知ルコトハ
常ノ人ノ及バヌ事ナル故ニ後代ノ王者天下ヲ取タマヒテハ必其
一代ノ地理ヲ定メ臣下ニ命ジテ地理ノ書ヲ撰セシメラル明ノ太

祖ハ天下ヲ取タミテ、^{エタ}教多ノ儒臣ニ命ジテ、大明一統志ヲ撰セシメ
フル。古來ノ地志ノ中ニ一統志ホド詳ナルハ無シ。其後又州郡ヲ別ニ
記シテ府志トイフ者モ多ク出ツ。地理ニ於テハ遺憾ナシトイフベシ。
日本ニテハ上古ハ海内ノ地名モサダカナラズ、文字モ分明ナラザリシ
ヲ文武天皇ノ時、^{ミコト}詔アリテ海内ヲ六十六州ニ定メ、郡ノ数ヲモ定メ
國郡ノ名ヲ悉^{コトメ}ニ定ラル。是ヨリ日本ノ地理一^{コト}定シテ、後世コレ
ヲ改ムルコト無シ。是誠ニ盛舉ナリ。然レドモ異國ノ如クニ地志ヲ作ル
コト無キ故ニ海内ノ人吾國ノ地理ヲ知ラズ。昔^{コト}中官人ハ
其記録繪圖ナドモ有ツランガ、世ニ普ク^{フシ}行ハレザルハ人ノ知ルベキ様
ナシ。其後諸國ノ風土記アレドモ是モ世ニ弘マラザル故ニ永ク傳

ハラズ。末ノ世ニ至テハ散亡シテ國家ノカニテモ求ラルベキ様ナク
増テ存下ノ人ハ一覽スルコトモ叶ハズ。開闢以來幾千年ヲ歷テ中
古ヨリ文字ノ道モ行ハレシニ今ノ世ニ至ルニテ地理ノ書トテ一部モ
傳ハラザル。歎カンキ事ニ非ズマ、畢竟文字ニ拙ク述作ニ^{ミヤ}懈キ故
ナリ。又異國ニテハ天子ノ勅命ニテ何ニテモ政務ノ書ヲ撰スレバ
板ニ刻テ天下ニ頒行^{アガテ}フ故ニ人民^{コト}ニテ悉コレヲ見ル。吾國ニテハ左
様ノ書若^{モシ}アリテモ秘密シテ下ニ頒行^{アガテ}ハルコト無シ。是政シナス人
ノ公ナラザル過ナリ。吾國ノ古書ノ中ニモ國家有用ノ書トモ多
クハ亡失シテ後世ニ傳ハラザルハ皆官府ニ秘密シテ廣ク世ニ
行ハザル故ナリ。鎌倉ノ右大將家ヨリ天下武家ノ國トナリテ

四百年ニ及ブテハ公家ノ世ノ風ニテ天下郡縣ノ政ヲ行ヘリ當代
ハ封建ノ制ヲ創テ既ニ百年ナリ大小ノ諸侯各分國アリテ封疆
ヲ守ル此時ニ於テ地理ノ正キ書世ニ行ハレザル故ニ諸侯以下ノ領
主鄰國鄰郷ト境ヲ爭フ事往々ニコレ有ル時奉行所ニテ決シ
カタキ事多シ異國ノ如クニ勅撰ノ地志天下ニ流布スバ疆界
分明ニシテ下民モ常ニコレヲ知ル故ニ自然トシテ爭訟モ起ラス
若争ヒ起リテモ官府ニテ判断シヤスレ是地志ハ天下ヲ治ムル
道具ニ非ズマ當代モ天下ノ地圖記錄ハ本ヨリ有リ近世ニ及テ
憲廟ノ時又天下ノ國郡ニ詔シテ新圖ヲ作ラシメラル數年ニ歷テ成
就セリ是誠ニ治道ノ要務ヲ知シメタルナリ然レドモ其圖モ記錄モ

官府ニ秘シテ世ニ行ハレザル人ノ知ルベキ様ナシ今ノ世ハ天下文明
ノ時ニテ文章ニ達セル儒者モ前代ヨリ多ケバ此時ヲ幸トシテ儒
臣ニ命ジテ吾國ノ一統ヲ作ラシメテ海内ニ頒行ハル實一代
ノ盛舉ニシテ天下ノ人ノ重寶ナルベシ

○日本ハ本来文字ナキ國ナル故ニ凡物ノ名多クハ文字ニ當ラズ土
地ノ名ハ六十六州ノ國郡ノ名ヲ定置レタルノミニテ其外ノアラユル山
等ノ名ハ定マリタル文字モ無キコト多シ只俗間ニイヒナラハセルラ其
マニ文字ニ寫ス故ニ其名雅馴ナラスシテ文章ニ入リガタシ記錄ヲ
作ルニモ地名ハ有ノマニ書スル者ナリ又詩文ヲ作ルニモ地名ヲ見
ハサズシテ叶ハザル事アリ然ルニ地名甚鄙俗ニシテ文字ニ當ラザル

バ如何ナル文章ノ達者ニテモ其詞ヲ文雅ニスルコト能ハズ凡テ記録
等ヲ作ルニ好キ文章ニテ正シク作りタル書ハ永世ニ傳ハリテ葉レ
ズ鄙俗ナル詞ニテ淺ハカニ作りタル書ハ一旦世ニ行ハレテモ程ナク
廢レテ永クハ傳ハラヌ物ナリ然レバ凡物ノ名ヲバ正シクスベキコト必
然ナリ地名ハ天下ニ流布シタル者ナレドモ上ヨリ令ヲ下レテ改メ
テフニ改メガタキコト少モ有ルベカラズ諸侯ノ一國ノ内ニテモ舊名
ヲ改ムルコトハメヅラシカラズ増テ海内ノ主トシテ海内ノ地名ヲ改
メハハニ何ノ憚ル所カアラシ是瑣碎ナル様ナル事ナレドモ關カ
ルトコロ廣大ナリ國家ノ光ヲ揚ル一事ナリ經濟ノ意ヲテ古
ヲ好ミン人ハ建白スベキ事ナリ

○中華ニテ歴史ニ皆其一代ノ地理ヲ記シテ地理志トイフ歴史
ヲ作ル者ノ私ニ作レルニ非ズ其代ノ天子ノ勅命ニテ圖籍トイフ物
アルヲ取テ其文ヲ修飾シテ書クナリ圖籍トハ繪圖ト帳面トナリ
吾國ニハ古ヨリ左様ノ物ナキ故ニ只今若史記ノ類ヲ作ラント思
フ者モ地理志ヲ作ルベキ様ナシ是學者ノ私ノ力ニ及バヌ事ナレバ
ナリサレバ遠キ異國ノ地理ヲバ此方ニテ委ク知ルコトヲ得レドモ吾
國ノ地理ハ却テ異國ヲ知ルホトニハ知リガダシ是恨メレキ事ニ非
ズヤ總ジテ記録ハ國ノ寶ナリ地理ノミニアラス中華ニテハ何事ヲ
モ記録スル故ニ千萬年ノ古ヨリ大事モ小事モ世ニ傳ハリテ亡
ビズ此方ニテハ記録スルコト稀ナル故ニ世ニ傳フベキ事ノ傳ハラ

ズシテ消滅スルコト甚多シ尤^{モトモ}惜キ事ナリ其中ニモ地理ヲ辨ヘ
封疆ヲ正^スシクスルハ國家ノ大典ナリ昇平ノ時節箇様ノ事ヲ
議セラレザルハ闕典トイフベシ

經濟錄卷第四終

